

医薬品の安全性情報に関する 医療従事者のニーズ把握調査 (医師、薬剤師) —速報—

※後日、クロス集計や考察を含めた、
詳細版を発行予定です。

2023年12月1日

日本製薬工業協会（製薬協）

医薬品評価委員会 ファーマコビジランス部会（PV部会）

TF1（Dxを活用したリスクコミュニケーション）



目次

- **Executive Summary**
- **背景と目的**
- **方法（アンケート概要）**
- **結果**
 1. 対象集団の属性情報
 2. 医療従事者の入手情報に関する傾向分析
 3. 医療従事者のインターネットでの情報入手に関する傾向分析
 4. 患者の情報入手に対する医療従事者の見解
- **作成担当／編集**
- **APPENDIX（スクリーニング情報）**

Executive Summary

※後日、クロス集計や考察を含めた、詳細版を発行予定です。

- ✓ **医師及び薬剤師共に、安全性情報に関するニーズは高かった。**
 - ✓ 医薬品の安全性情報のニーズは高く、「週に1-3回程度」以上見られることが多かった。
 - ✓ 安全性情報のうち、特に必要とされている情報は、副作用の「頻度」、「対処方法」及び「発現時期」であった。
- ✓ **医師及び薬剤師共に、安全性情報入手時に重視する基準と情報源は診療時間中・外で異なった。**
 - ✓ 診療時間中は「アクセスしやすい」こと、診療時間外は「必要な情報が集約・網羅されている」ことや「高いエビデンスと客観性」がより重視された。
 - ✓ 入手時の情報源は、診療時間中・診療時間外共に「書籍」は多く選択されていた。
 - ✓ 診療時間中は「電子カルテのDIシステム」、診療時間外は「学会サイト・ガイドライン」及び「製薬会社」等のWebサイトも選択された。
- ✓ **医師と薬剤師では、インターネットでの安全性情報入手時の最初のアクションに相違があった。**
 - ✓ 医師は「まずは検索エンジンで検索する」人、薬剤師は「特定のサイトにアクセスする」人がやや多かった。
 - ✓ 最初にアクセスするサイトで半数近くまたは以上を占めたものは、医師は「医療系※」、薬剤師は「製薬会社」及び「PMDA」のWebサイトであった。
 - ✓ Webサイトを選択する理由は、医師及び薬剤師共に「高いエビデンスと客観性」と「アクセスしやすい」であった。
- ✓ **医師に比べ薬剤師は患者がインターネットで情報入手することに対して懸念を示した。**
 - ✓ 患者がインターネットで情報入手することに懸念を示す割合は医師に比べ薬剤師で高く、懸念点は「誤った解釈」であった。
 - ✓ 患者に見てほしいサイトは「学会サイト・ガイドライン」及び「製薬会社」のWebサイト、見てほしくないサイトは「Webサイト上のコミュニティ」及び「Webサイト上の掲示板（Yahoo!知恵袋等）」であった。

※医療系サイト：KEGG、メドレー、M3、日経メディカル、ケアネット等

背景と目的

【背景】

- ✓ 昨今、医療従事者向け情報提供・入手サイトの立ち上げ¹⁾、電子カルテから直接安全性情報にアクセスする仕組み作り²⁾、商用サイト及び製薬会社全社共通プラットフォームの樹立³⁾等を通じてデジタルチャネルを介した情報提供が進んでいる。
- ✓ COVID-19を機に、医師の医薬品情報の取得のために利用するメインチャネルがMR/MSLによる「リアルチャネル」から、ウェブサイト、ウェブセミナー等の「オンラインチャネル」へシフトしている⁴⁾。
- ✓ このように取り巻く環境は変化してきているものの、安全性情報入手に関するニーズの実態は明らかでない。

【目的】

医療従事者による安全性情報の入手に関する調査を通じて現状を把握し、より適切な安全性情報提供に向けた提言や情報発信のために活用する。

MR: Medical Representatives
MSL: Medical Science Liaison

1) 事例：コナチ筋注 新型コロナワクチンの適正使用について（2021年2月）（2023年11月6日アクセス） https://www.med.or.jp/dl-med/kansen/novel_corona/vaccination/20210220_3.pdf

2) 事例：医薬品の適正使用情報を電子カルテを通じて提供、質の高い医療サービスと患者のQOL向上に貢献 富士通（2021年3月16日）（2023年11月6日アクセス）
<https://pr.fujitsu.com/jp/news/2021/03/16.html>

3) 事例：PhindMI <https://www.phindmi.com/FAQ/GFAQ01M04.aspx>

4) 事例：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行による医師の医薬品情報収集方法の変化と課題についての調査結果 PwCコンサルティング合同会社（2020年6月22日）（2023年11月6日アクセス）
<https://www.pwc.com/jp/ja/press-room/commercial-model-pharmaceutical200622.html>

本調査実施に向けた仮説

本調査の実施にあたり、事前に想定していた仮説は以下のとおりである。

1. 医師と薬剤師ともに、安全性情報に関するニーズは高いのではないかと？
2. 医師と薬剤師で、安全性情報について重視する観点が異なり、それに伴い好ましい情報源が異なるのではないかと？
3. 診療時間中と診療時間外で、安全性情報について重視する観点が異なり、それに伴い好ましい情報源が異なるのではないかと？
4. COVID-19の影響もあり、医師、薬剤師ともにインターネットによる安全性情報収集が進んでいることが想定されるが、検索エンジンを用いているのか、特定のサイトへアクセスして情報収集しているかは不明であり、その選択基準を明らかにすることで、より適切な情報提供につながる可能性があるのではないかと？
5. 患者・生活者が処方薬の情報を入手する際の医師・薬剤師以外からの情報源は、インターネットの割合が50%以上と多い^{1,2)} が、インターネット上には信憑性に欠ける情報も含まれていることから、医師や薬剤師は一定の懸念を示しているのではないかと？

1) くすりの適正使用協議会 プレスリリース「医療用医薬品の情報入手先、インターネットからが増加」（2021年5月20日）（2023年11月3日アクセス）
<https://www.rad-ar.or.jp/release/post?id=4802>

2) 日本製薬工業協会 「第16回くすりと製薬産業に関する生活者意識調査」の調査結果報告書（2023年11月3日アクセス）
https://www.jpma.or.jp/news_room/issue/survey/index.html

方法（アンケート概要）

調査方法	インターネット調査
調査地域	全国
調査対象・条件	<p>以下の①－③のいずれかの疾患を診ている医師</p> <p><u>①がん（以下の条件に全て該当）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 病床数100床以上の病院に勤務 ■ 最近1年間に5人以上のがん患者に、抗がん剤治療を実施している（がん種は問わない） <p><u>②糖尿病（以下の条件に全て該当）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 最近1か月間に、2型糖尿病患者を100人以上薬物治療している ■ 糖尿病専門医資格あり（主診療科不問）、あるいは主診療科が糖尿病・代謝・内分泌 <p><u>③新型コロナウイルス</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 最近1年間に10人以上のCOVID患者に、新型コロナウイルスに対する適応の承認取得されている治療薬を処方している <p>以下の①または②の薬剤師</p> <p><u>①病院に勤務する薬剤師（以下の条件に全て該当）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 100床以上の病院に勤務している ■ 施設で、がんに関わっている・抗がん剤の調製をしている ■ 病院の病棟担当、もしくは調剤部門（調剤所、Drug information担当、検査部門）に勤務 ■ 次のいずれかの資格を保有している 日本医療薬学会がん専門または指導薬剤師、がん薬物療法専門または認定薬剤師、外来がん治療専門または認定薬剤師 <p><u>②調剤薬局に勤務する薬剤師（以下の条件に全て該当）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 最近1か月の処方箋応需枚数 1000枚/月 以上（薬局として） ■ 調剤薬局の薬剤師または調剤薬局のDrug information ■ 最近1か月間で、6人以上のがん患者さんの調剤を実施（薬局として）

方法（アンケート概要）

調査台帳	日経パネル
調査期間	2023年5月17日（水）～5月25日（木）
回収サンプル数	医師 252件 薬剤師 109件

本アンケートにおける情報源の種類と定義は以下のとおり

書籍	専門書、今日の治療薬等
病院スタッフ	薬剤師、医師、DI等
医療機関 Webサイト	がんセンター、大学病院等の各医療機関によるWebサイト
医療系サイト	KEGG、メドレー、M3、日経メディカル、ケアネット等のWebサイト
Webサイト上のコミュニティ	Twitter/Instagram等のSNS、個人ブログ等

1.対象集団の属性情報

対象集団の属性情報

本調査の対象である、医師、薬剤師の属性情報の概要は以下のとおり

医師（N=252）

項目	結果
年齢 （10歳刻み、 3位まで）	30代： 56 (22.2%) 40代： 93 (36.9%) 50代： 59 (23.4%)
施設経営形態	大学病院（国公立・私立大）：53 (21.0%) 国・公立病院（がんセンター、がん専門）：19 (7.5%) 国・公立病院（上記以外）：63 (25.0%) 一般病院：83 (32.9%) クリニック：32 (12.7%) その他：2 (0.8%)
調査対象の診療領域	がん（外科）：66 (26.2%) がん（内科）：55 (21.8%) 糖尿病：66 (26.2%) COVID19：65 (25.8%)
主な診療科	内科：78 (31.0%) 内分泌代謝内科・糖尿病科：48 (19.0%) 呼吸器科：27 (10.7%) 消化器科（胃腸科）：25 (9.9%) 外科：22 (8.7%)

薬剤師（N=109）

項目	結果
年齢 （10歳刻み、 3位まで）	30代： 46 (42.2%) 40代： 43 (39.4%) 50代： 12 (11.0%)
勤務形態	大学病院（国公立・私立大）：9 (8.3%) 国・公立病院（がんセンター、がん専門）：3 (2.8%) 国・公立病院（上記以外）：18 (16.5%) 一般病院：24 (22.0%) 調剤薬局：55 (50.5%)
調査対象の職務	病院の調剤部門等（調剤所、DI、検査部門）：27 (24.8%) 病院の病棟部門（手術室、ICU/HCU、病棟）：27 (24.8%) 調剤薬局の薬剤師（管理薬剤師含む）：28 (25.7%) 調剤薬局のDI（Drug Information）担当：27 (24.8%)

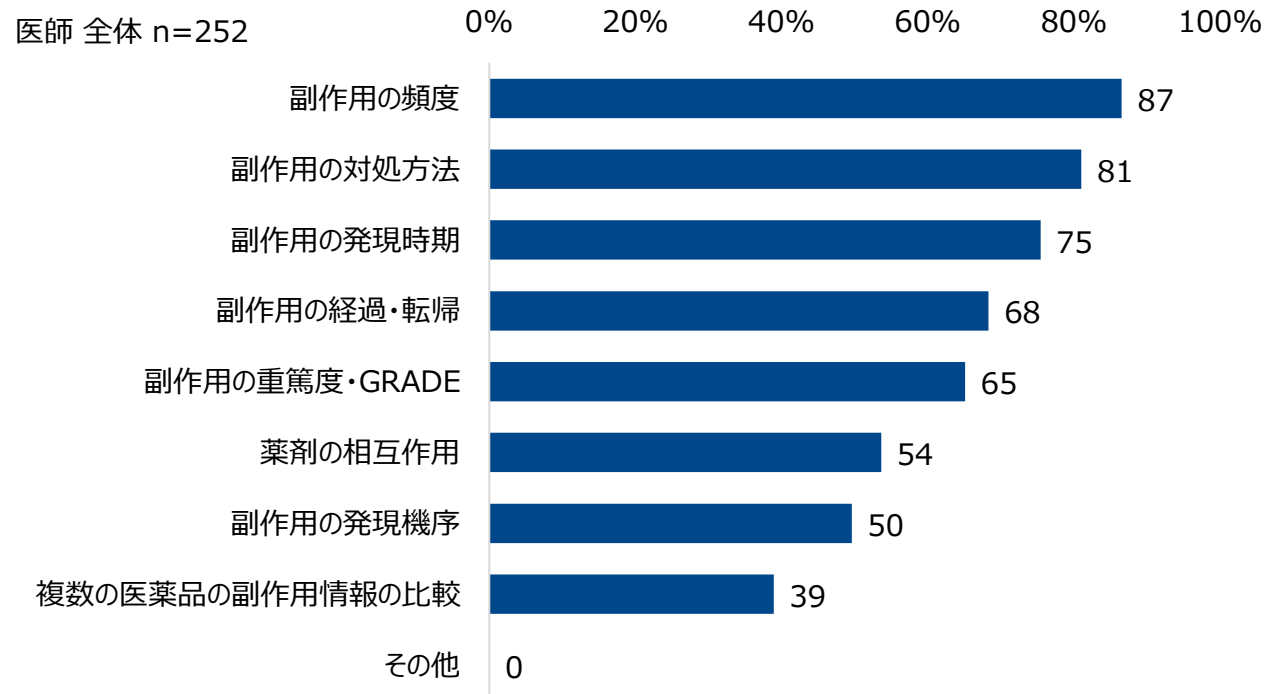
2. 医療従事者の入手情報に関する傾向分析

医薬品の安全性情報を調べる際に必要な情報（医師）

医師が安全性情報を調べる際に必要な情報は、「副作用の頻度」が最も多く87%、次いで「副作用の対処方法」81%、「副作用の発現時期」75%と続いた。

医薬品の安全性情報を調べる際に必要な情報

医師



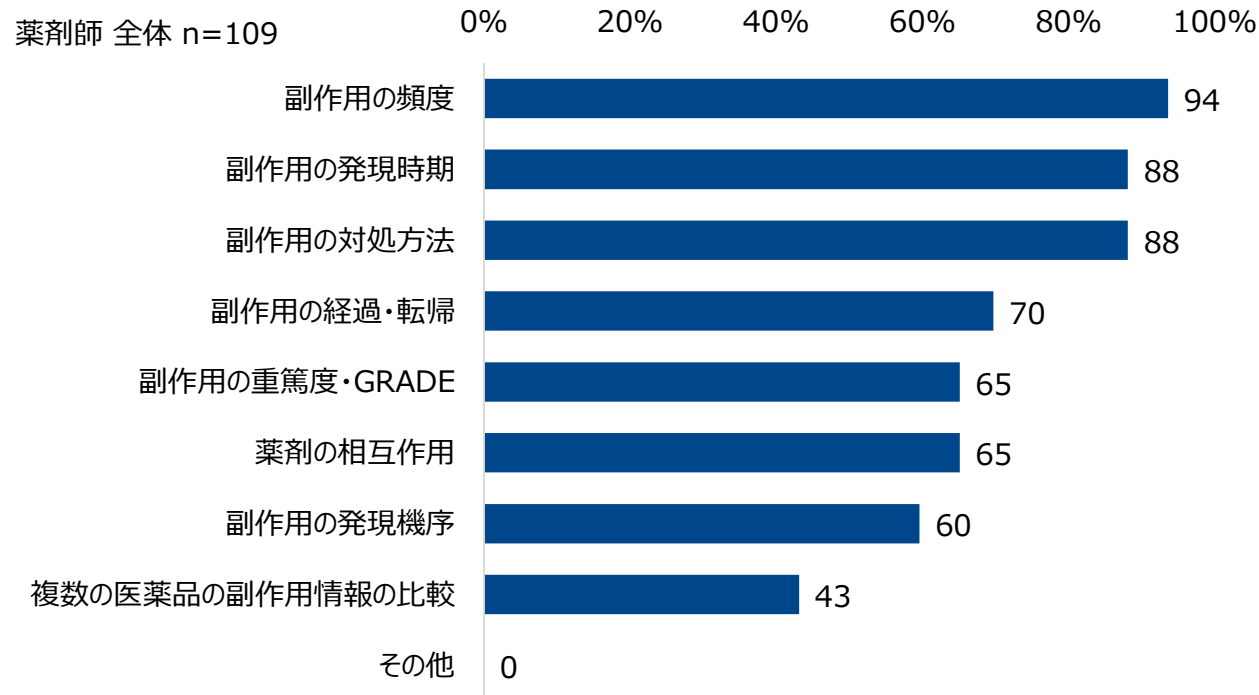
Q17. 医薬品の安全性情報（副作用）を調べる際に、どのような情報が必要ですか？（複数回答可）

医薬品の安全性情報を調べる際に必要な情報（薬剤師）

薬剤師が安全性情報を調べる際に必要な情報は、「副作用の頻度」が最も多く94%、次いで「副作用の発現時期」88%、「副作用の対処方法」88%と続いた。

医薬品の安全性情報を調べる際に必要な情報

薬剤師

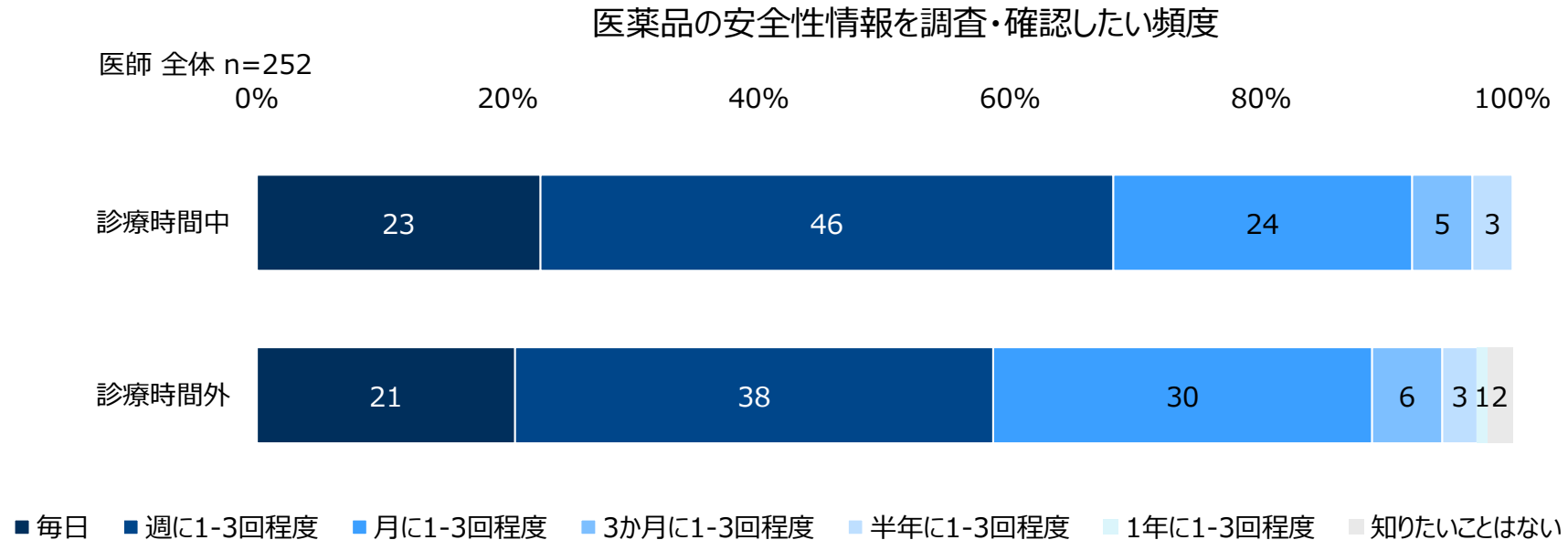


Q17. 医薬品の安全性情報（副作用）を調べる際に、どのような情報が必要ですか？（複数回答可）

医薬品の安全性情報の調査・確認頻度（医師）

医師の安全性情報の確認頻度は、診療時間中・診療時間外共に、「週に1-3回程度」が最も多く、次いで「月に1-3回程度」であり、ニーズが高いことが示された。

医師



Q18. 医薬品の安全性情報（副作用）を調べたい、確認したい場面はどの程度ありますか？診療時間中、診療時間外でそれぞれ頻度を1つ選択して下さい。

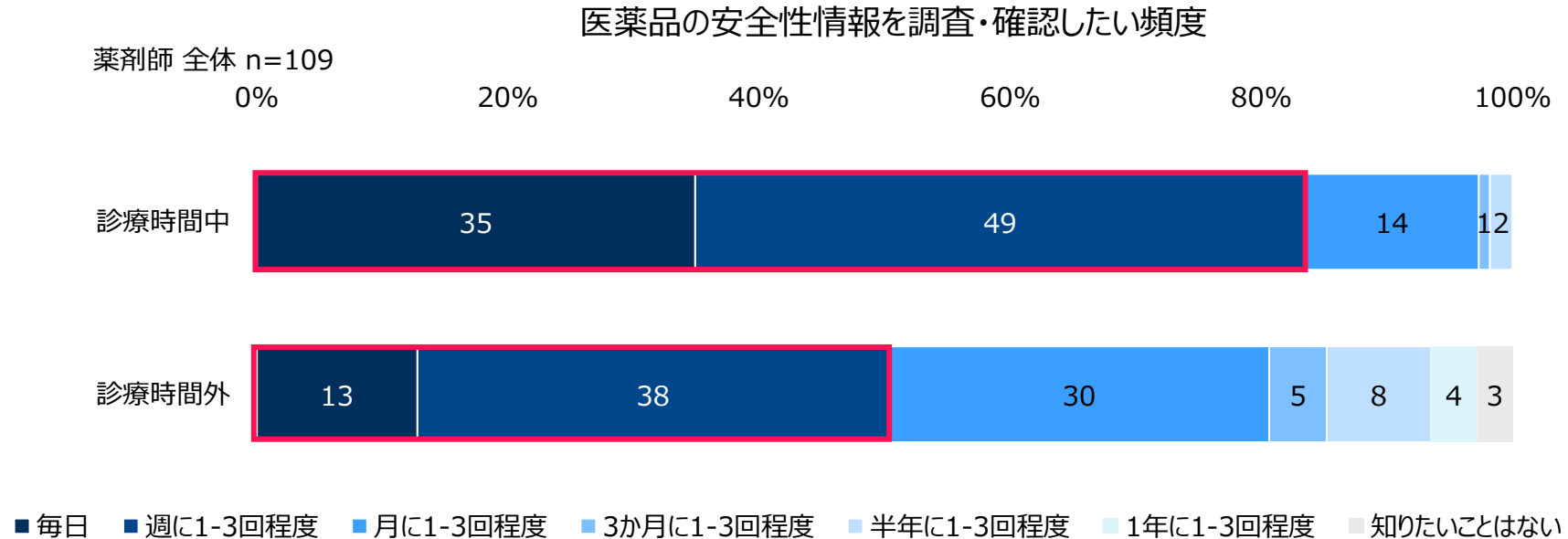
※診療時間中： 外来や患者受け入れ準備中の忙しい時を想定下さい

※診療時間外： 自分の時間を比較的確保できる場合を想定下さい

医薬品の安全性情報の調査・確認頻度（薬剤師）

薬剤師の安全性情報の確認頻度は、診療時間中では「週に1-3回程度」以上が84%を占め、ニーズが高いことが示された。診療時間外の「週に1-3回程度」以上が51%に対して30%近く高かった。

薬剤師



Q18. 医薬品の安全性情報（副作用）を調べたい、確認したい場面はどの程度ありますか？ 診療時間中、診療時間外でそれぞれ頻度を1つ選択して下さい。
 ※診療時間中： 外来や患者受け入れ準備中の忙しい時を想定下さい ※診療時間外： 自分の時間を比較的確保できる場合を想定下さい

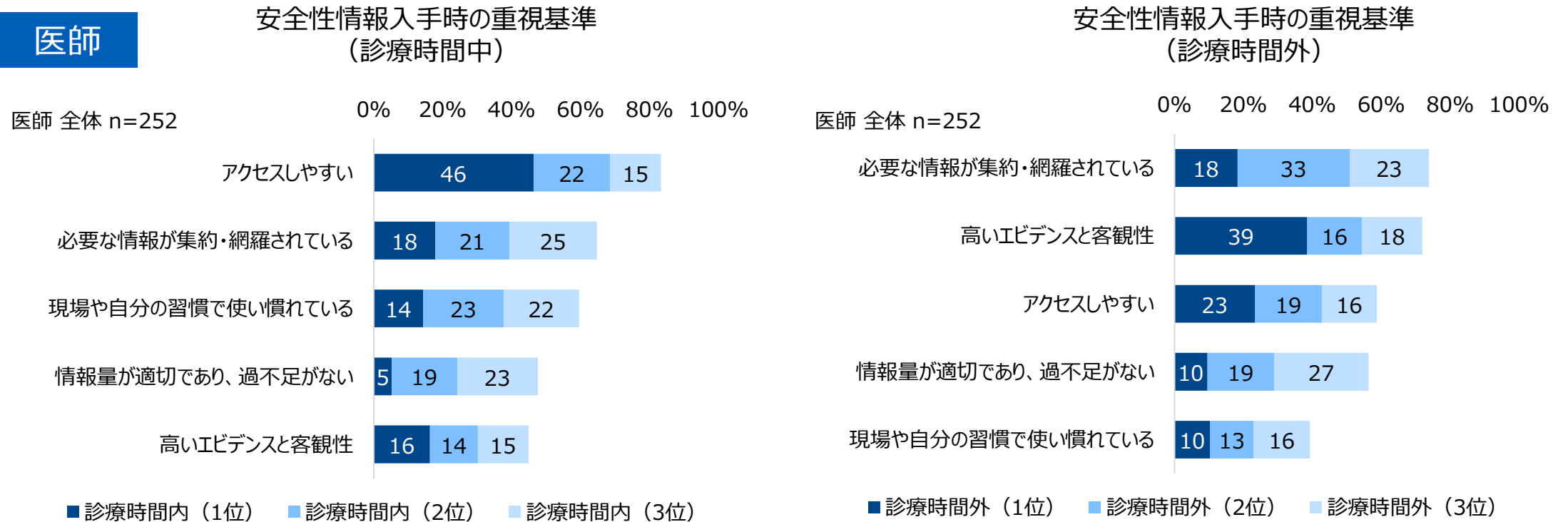
医薬品の安全性情報入手時に重視する基準（医師）

医師が安全性情報入手時に重視する基準は診療時間中と診療時間外では異なった。

診療時間中は「アクセスしやすい」こと、

診療時間外は「高いエビデンスと客観性」や「必要な情報が集約・網羅されている」がより重視された。

医師



Q19. 医薬品の安全性に関する情報（副作用）を入手する場合、重要視する基準について上から3つ順位を選択して下さい。診療時間中、診療時間外でそれぞれ選択して下さい。

※診療時間中： 外来や患者受け入れ準備中の忙しい時を想定下さい

※診療時間外： 自分の時間を比較的確保できる場合を想定下さい

医薬品の安全性情報入手時に重視する基準（薬剤師）

薬剤師が安全性情報入手時に重視する基準は診療時間中と診療時間外では異なった。

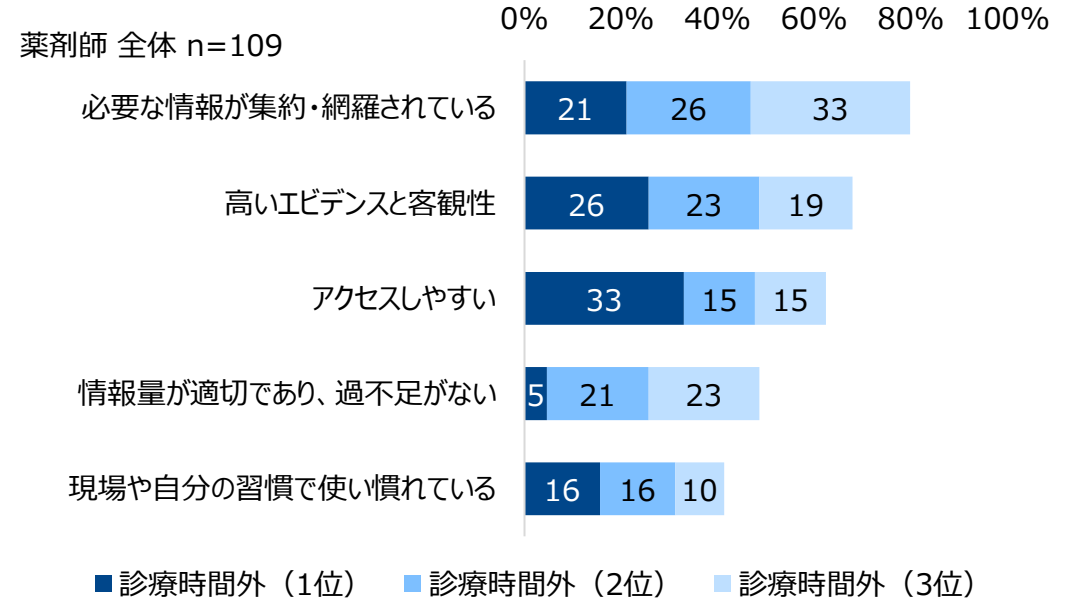
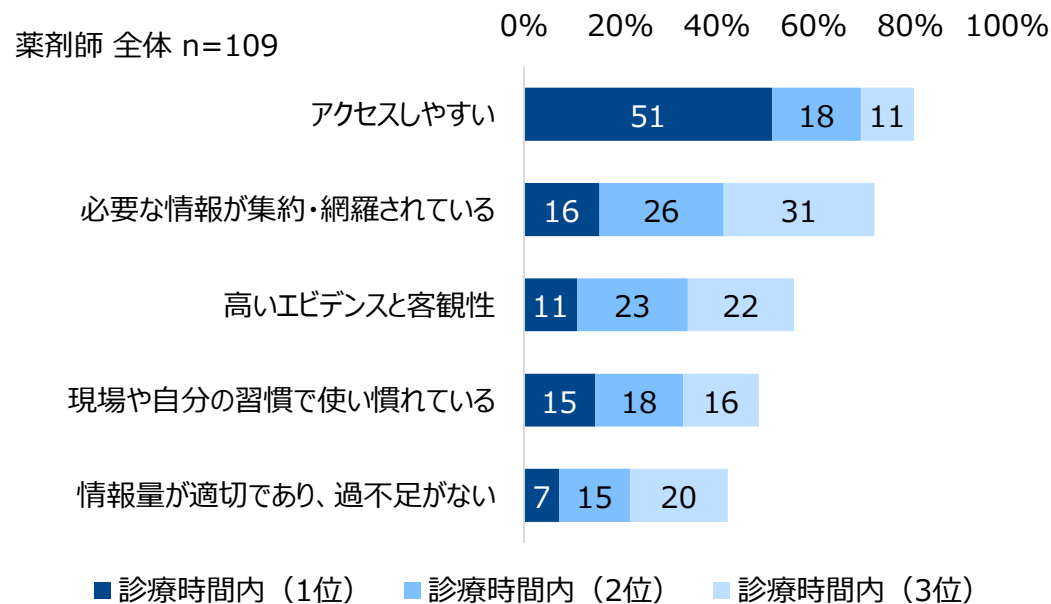
診療時間中は「アクセスしやすい」こと、

診療時間外は「必要な情報が集約・網羅されている」や「高いエビデンスと客観性」がより重視された。

薬剤師

安全性情報入手時の重視基準
(診療時間中)

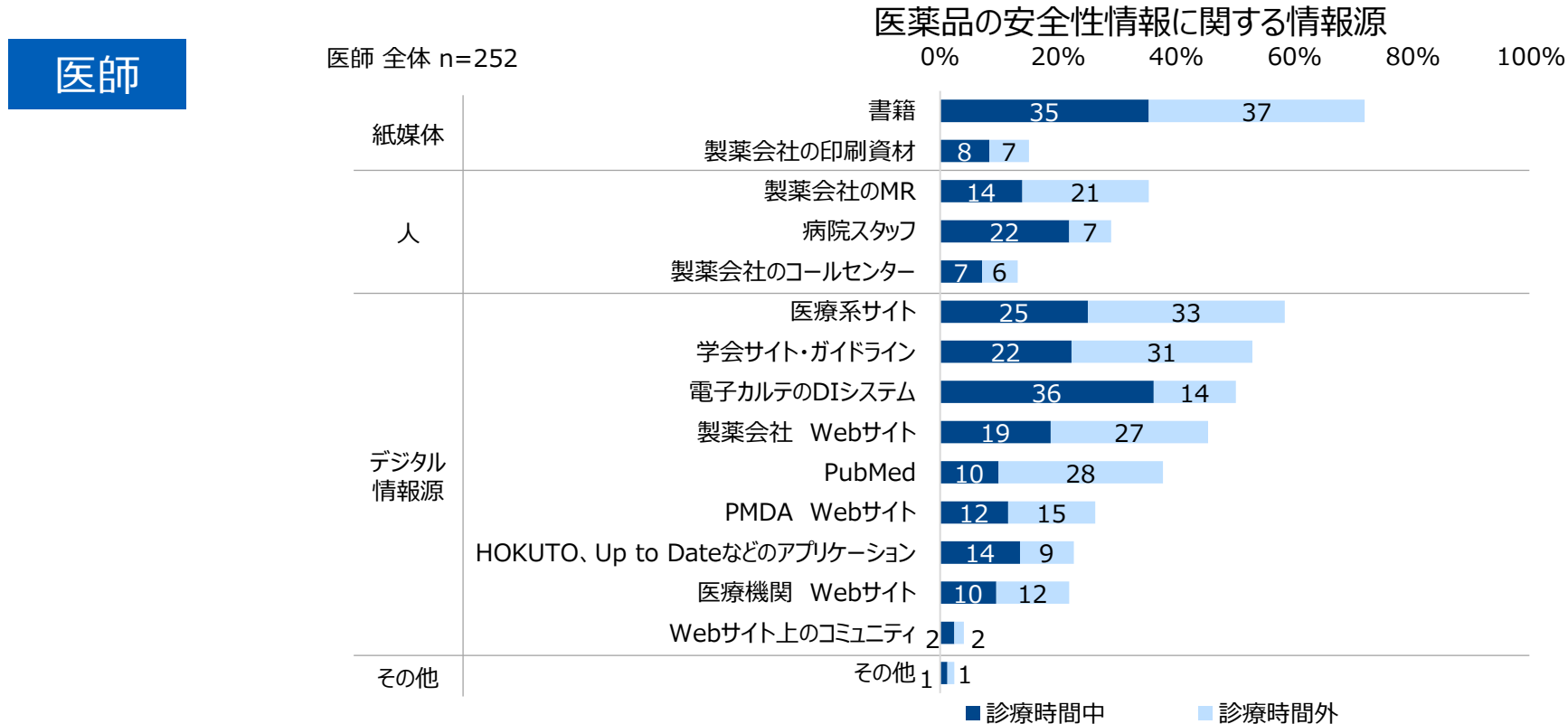
安全性情報入手時の重視基準
(診療時間外)



Q19. 医薬品の安全性に関する情報（副作用）を入手する場合、重要視する基準について上から3つ順位を選択して下さい。診療時間中、診療時間外でそれぞれ選択して下さい。
 ※診療時間中： 外来や患者受け入れ準備中の忙しい時を想定下さい ※診療時間外： 自分の時間を比較的確保できる場合を想定下さい

医薬品の安全性情報入手時の情報源（医師）

医師の安全性情報入手時の情報源は、「書籍」が診療時間中・外問わず多く選択された。それ以外では、診療時間中は「電子カルテのDIシステム」が最も多く36%、診療時間外は、「医療系」、「学会サイト・ガイドライン」、「PubMed」、「製薬会社」等のWebサイトが選択された。



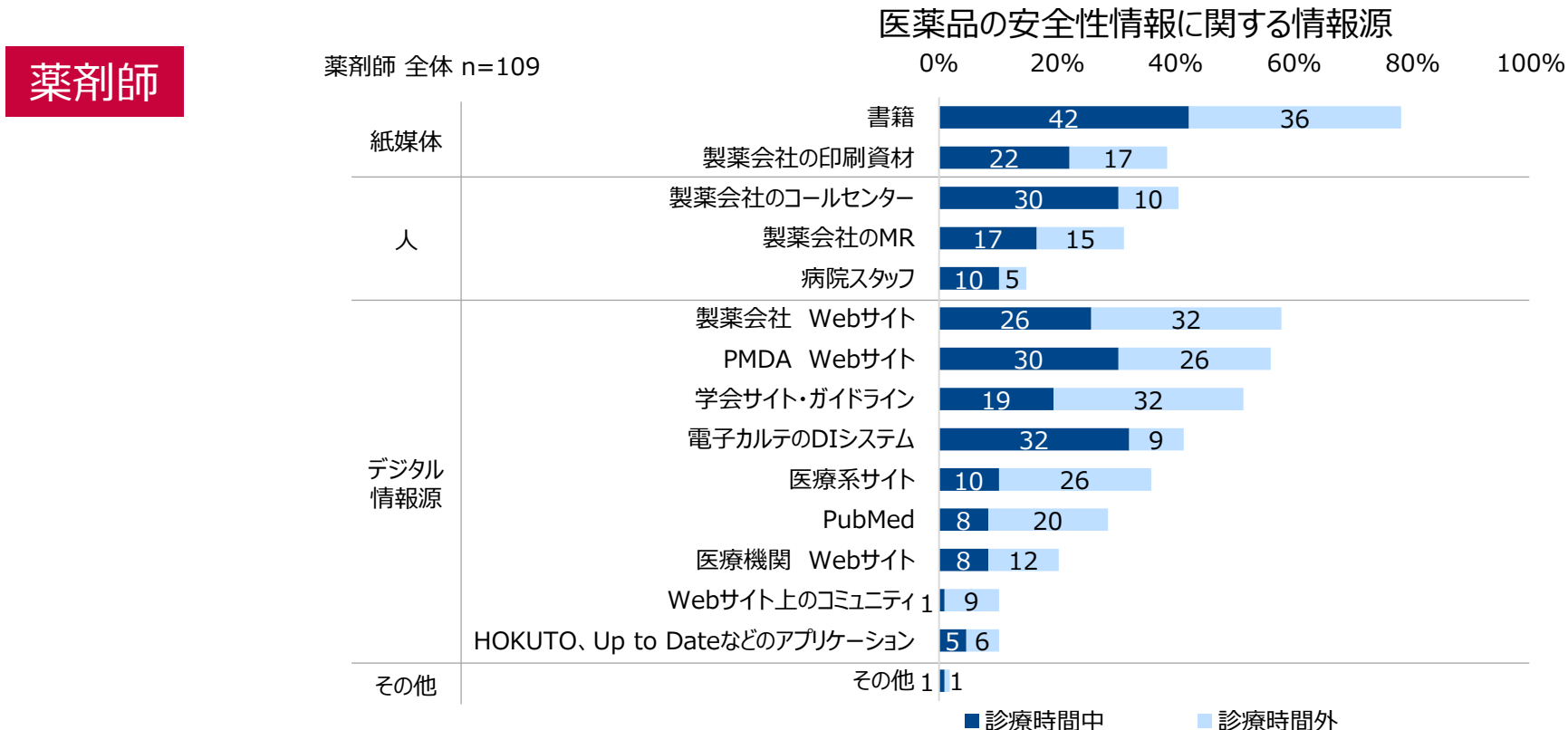
Q20. 医薬品の安全性に関する情報（副作用）を入手する場合、主にどの情報源から入手していますか？ 診療時間中と診療時間外のそれぞれについて、最大3つ選択して下さい。

※診療時間中： 外来や患者受け入れ準備中の忙しい時を想定下さい

※診療時間外： 自分の時間を比較的確保できる場合を想定下さい

医薬品の安全性情報入手時の情報源（薬剤師）

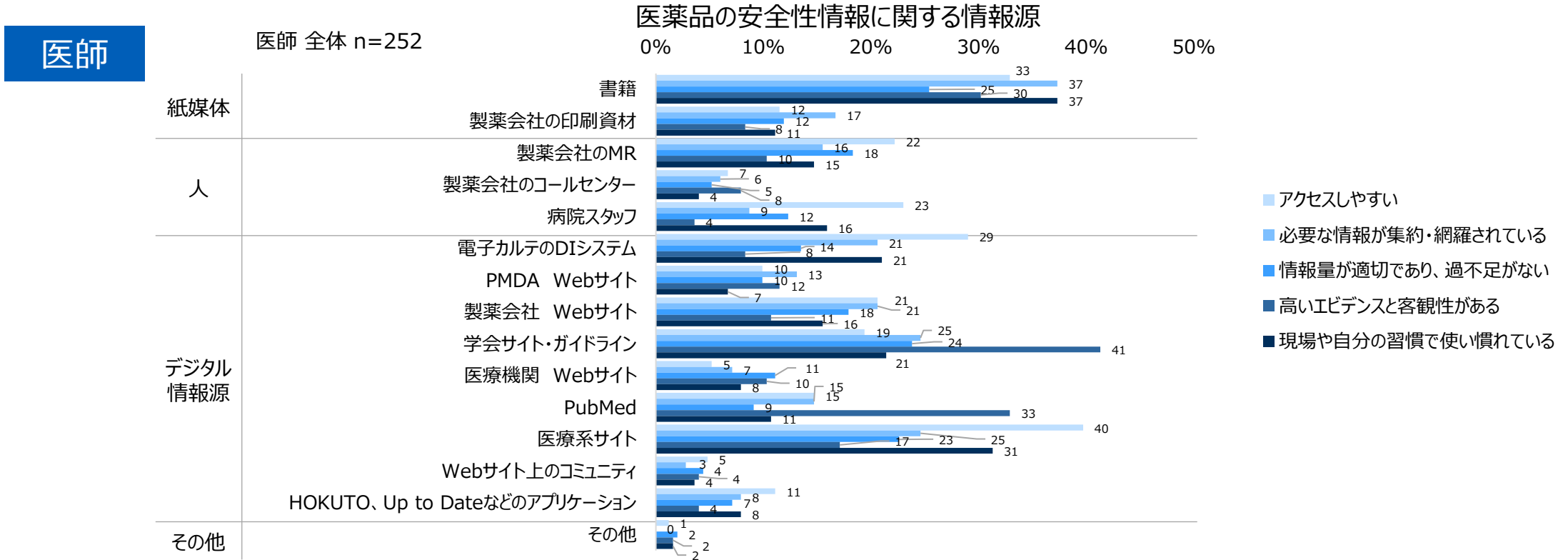
薬剤師の安全性情報入手時の情報源は、「書籍」が診療時間中・外問わず多く選択された。それ以外では、診療時間中は、「電子カルテのDIシステム」、「PMDA」のWebサイト、「製薬会社のコールセンター」、診療時間外は、「学会サイト・ガイドライン」、「製薬会社」等のWebサイトが選択された。



Q20. 医薬品の安全性に関する情報（副作用）を入手する場合、主にどの情報源から入手していますか？ 診療時間中と診療時間外のそれぞれについて、最大3つ選択して下さい。
 ※診療時間中： 外来や患者受け入れ準備中の忙しい時を想定下さい ※診療時間外： 自分の時間を比較的確保できる場合を想定下さい

医薬品の安全性情報入手時の情報源 選択の視点（医師）

5つの異なる視点で医師が安全性情報を入手する際、情報源はいずれも「書籍」が多く選択された。
 アクセスしやすさでは「医療系」のWebサイトや「電子カルテのDIシステム」が、
 高いエビデンスと客観性では「学会サイト・ガイドライン」のWebサイトや「PubMed」が多く選択された。

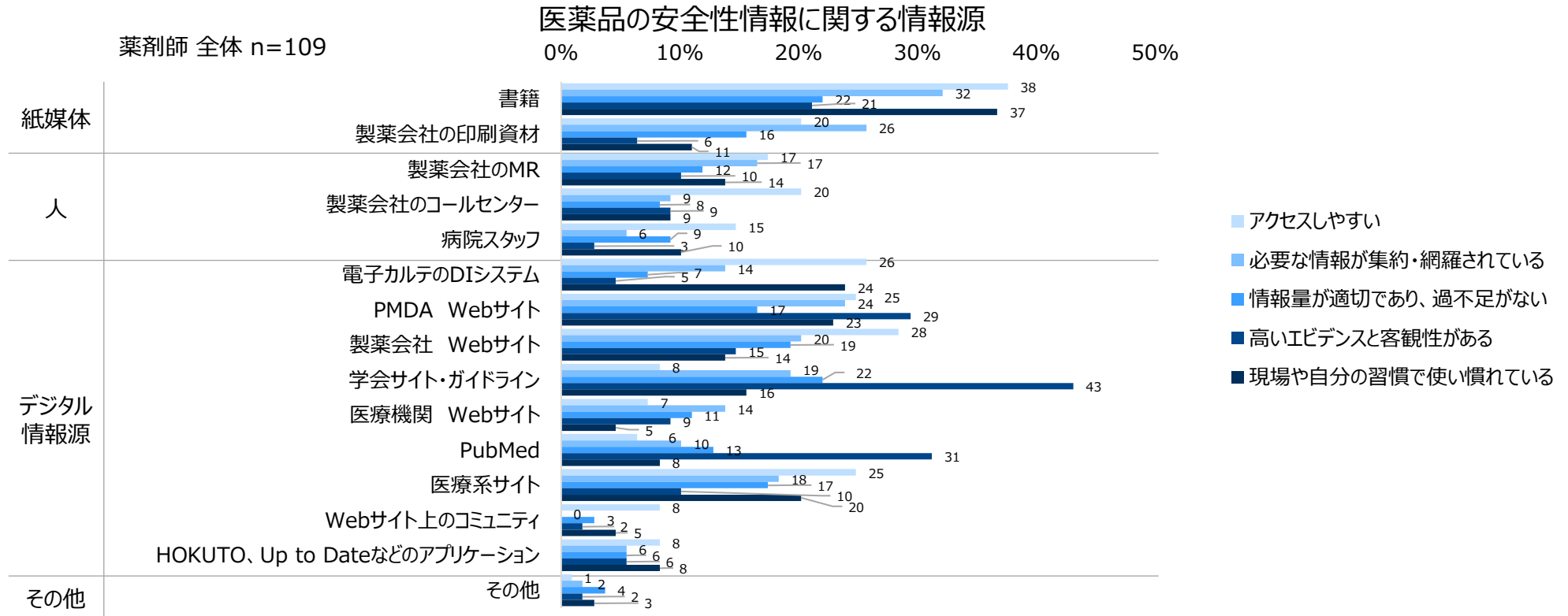


Q21. 医薬品の安全性に関する情報を入手する場合、それぞれの視点で情報源を最大3つ選択して下さい。（回答は3つまで可）

医薬品の安全性情報入手時の情報源 選択の視点（薬剤師）

5つの異なる視点で薬剤師が安全性情報を入手する際、情報源はいずれも「書籍」が多く選択された。
 また、多くの視点で「PMDA」のWebサイトが20%以上の薬剤師で選択された。
 高いエビデンスと客観性では「学会サイト・ガイドライン」のWebサイトや「PubMed」が多く選択された。

薬剤師



Q21. 医薬品の安全性に関する情報を入手する場合、それぞれの視点で情報源を最大3つ選択して下さい。（回答は3つまで可）

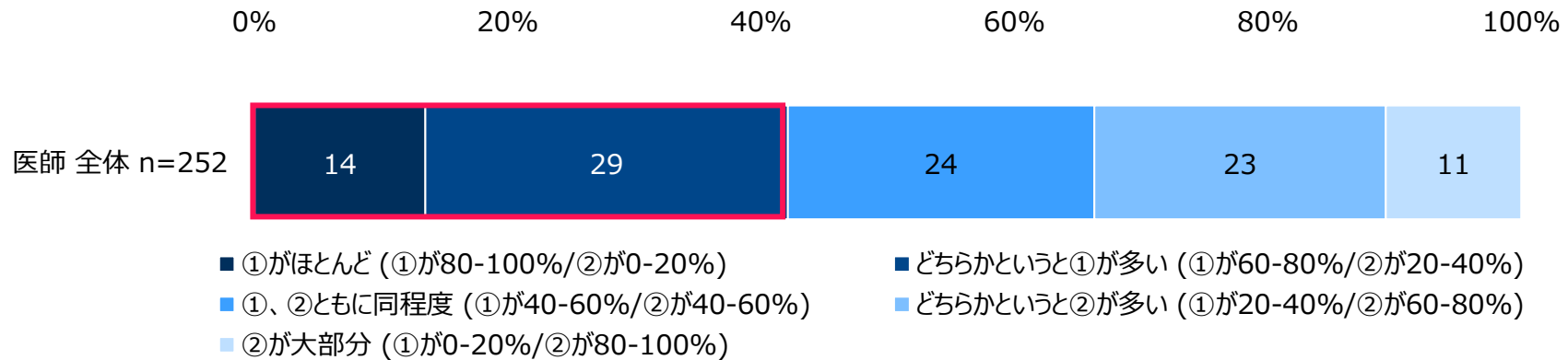
3. 医療従事者のインターネットでの情報入手に関する傾向分析

インターネット調べる場合の最初のアクション（医師）

医師がインターネットで安全性情報を調べる際の最初のアクションとして、特定のサイトにアクセスするのに比べ、「まずは検索エンジンで検索する（60-100%）」人が43%とやや多い傾向であった。

医師

医薬品の安全性情報をインターネットで調べる場合の最初のアクション



<提示資料>

①まずは検索エンジンで検索

②まずは特定のサイトへアクセス

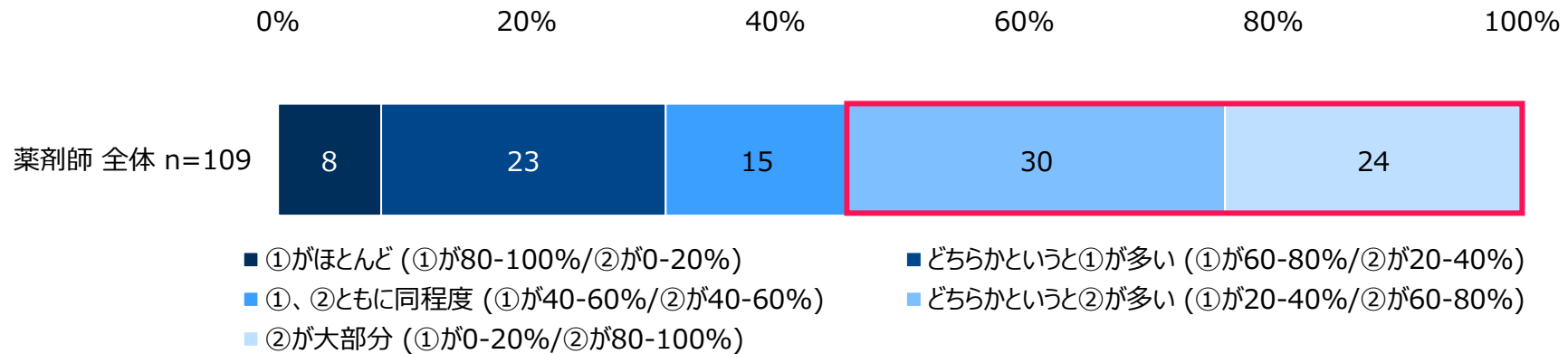
Q26. 医薬品の安全性に関する情報（副作用）をインターネットで調べる場合、一番最初のアクションとしてはどちらの方法が近いですか？

インターネット調べる場合の最初のアクション（薬剤師）

薬剤師がインターネットで安全性情報を調べる際の最初のアクションとして、検索エンジンで検索するのに比べ、「特定のサイトにアクセスする（60-100%）」人が54%とやや多かった。

薬剤師

医薬品の安全性情報をインターネットで調べる場合の最初のアクション



<提示資料>

①まずは検索エンジンで検索

②まずは特定のサイトへアクセス

Q26. 医薬品の安全性に関する情報（副作用）をインターネットで調べる場合、一番最初のアクションとしてはどちらの方法が近いですか？

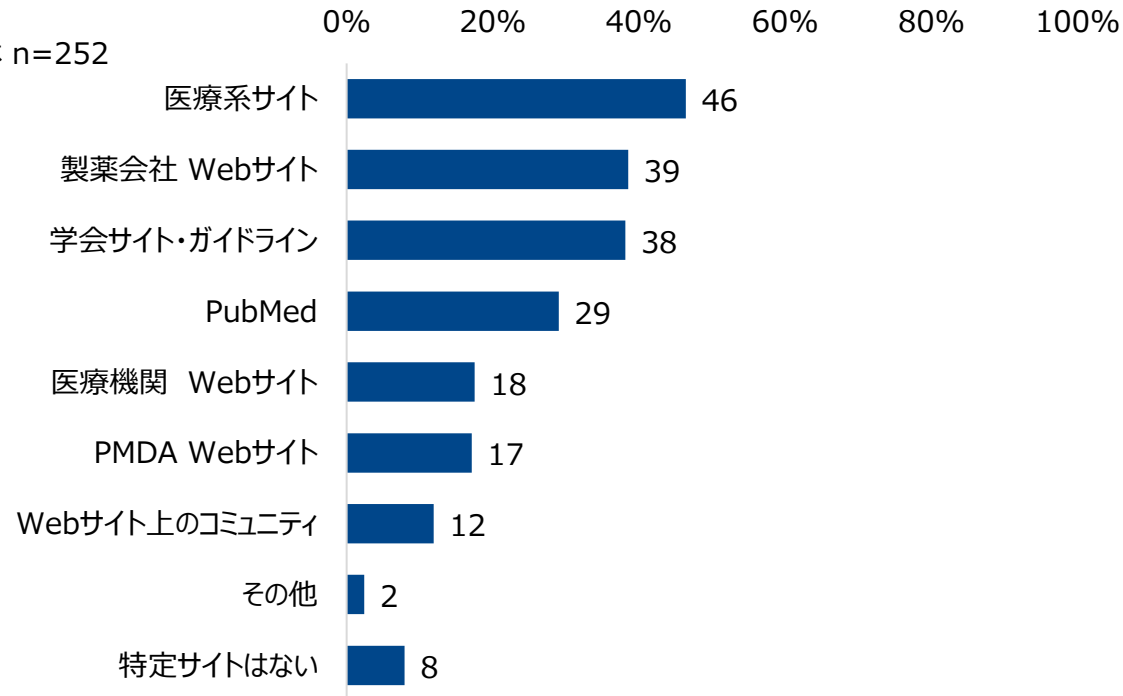
最初にアクセスするサイト（医師）

医師が安全性情報を調べる際に最初にアクセスする特定のサイトがある場合、その特定のサイトは「医療系」がほぼ半数を占め、「製薬会社」、「学会サイト・ガイドライン」のWebサイトと続いた。

最初にアクセスするサイト

医師

医師 全体 n=252

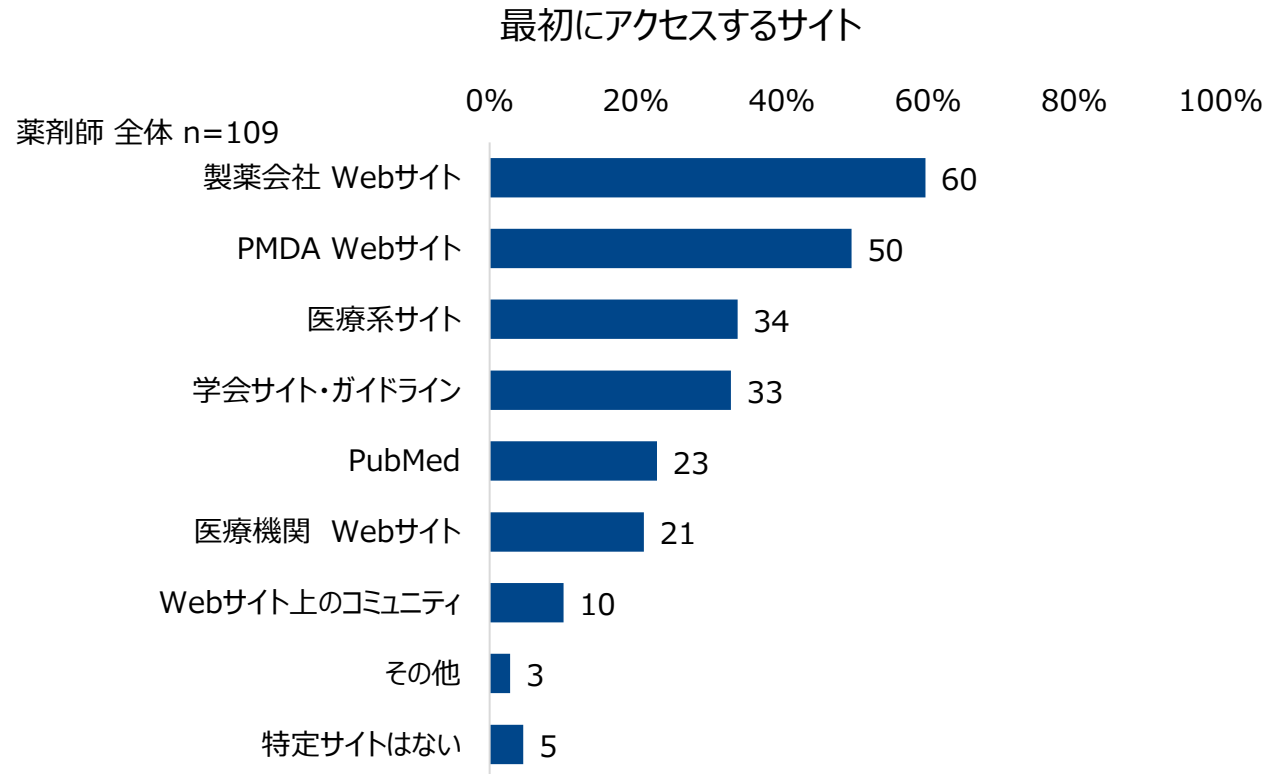


Q27. 前の設問で、②まず最初にアクセスする特定のサイトがある場合、以下のいずれでしょうか？（複数選択可）
（ブックマーク、アプリ、もしくは検索エンジン経由でそのサイトにアクセス）

最初にアクセスするサイト（薬剤師）

薬剤師が安全性情報を調べる際に最初にアクセスする特定のサイトがある場合、その特定のサイトは「製薬会社」及び「PMDA」が半数以上を占め、「医療系」、「学会サイト・ガイドライン」のWebサイトと続いた。

薬剤師



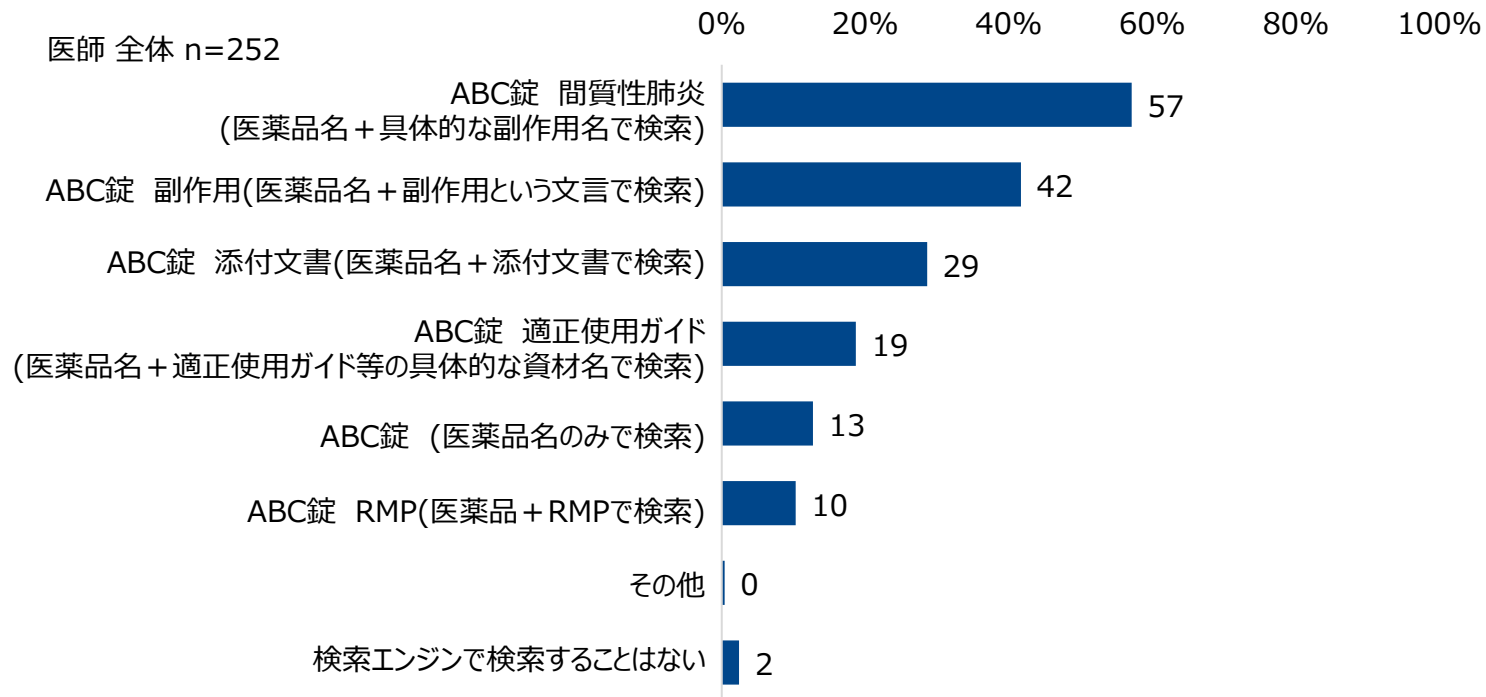
Q27. 前の設問で、②まず最初にアクセスする特定のサイトがある場合、以下のいずれでしょうか？（複数選択可）
（ブックマーク、アプリ、もしくは検索エンジン経由でそのサイトにアクセス）

検索の際に入力する検索ワード（医師）

医師が検索エンジンで安全性情報を調べたい場合に検索するワードは、「医薬品名＋具体的な副作用名」が57%を占め、「医薬品名＋副作用」、「医薬品名＋添付文書」と続いた。

検索の際に入力する検索ワード

医師

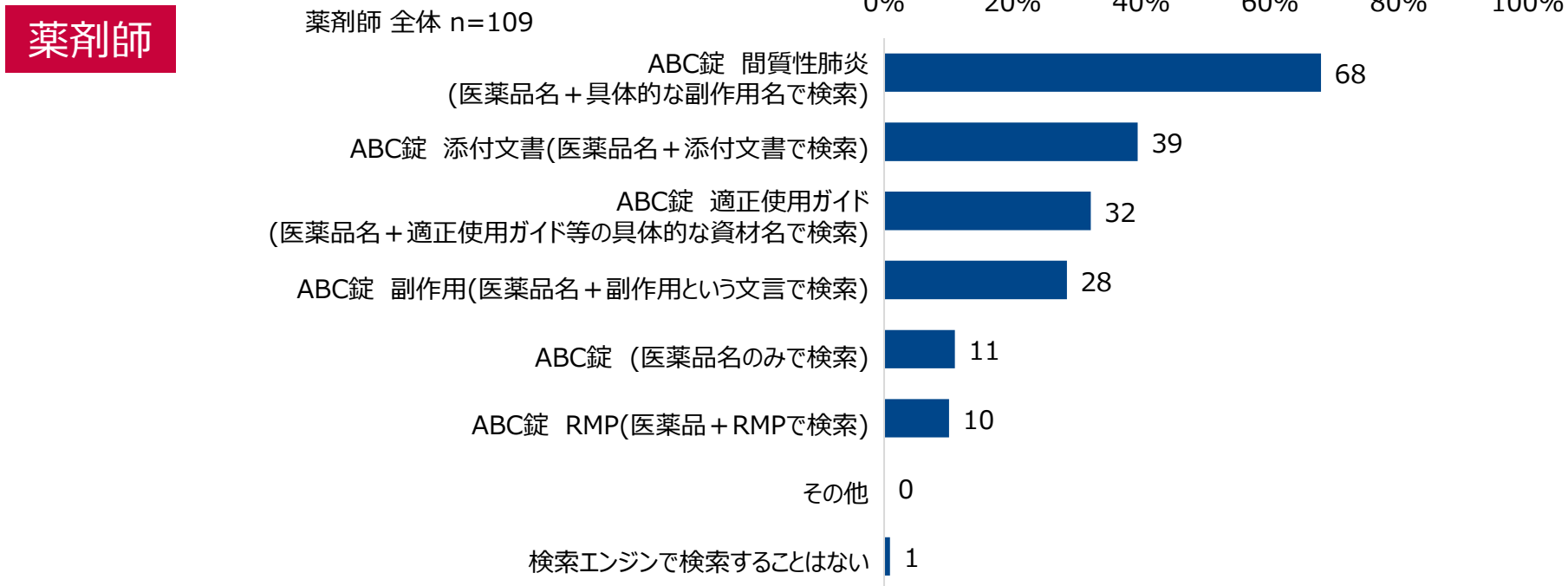


Q28. 前の設問で、「①検索エンジン（GOOGLE、YAHOO等）で、まずは検索」した場面を想定して下さい。検索の際、どのような検索ワードを入れることが多いですか？
該当するものを選択して下さい。（複数選択可） ※医薬品名は、製品名もしくは一般名のいずれか

検索の際に入力する検索ワード（薬剤師）

薬剤師が検索エンジンで安全性情報を調べたい場合に検索するワードは、「医薬品名＋具体的な副作用名」が68%を占め、「医薬品名＋添付文書」、「医薬品名＋適正使用ガイド」と続いた。

検索の際に入力する検索ワード



Q28. 前の設問で、「①検索エンジン（GOOGLE、YAHOO等）で、まずは検索」した場面を想定して下さい。検索の際、どのような検索ワードを入れることが多いですか？
該当するものを選択して下さい。（複数選択可） ※医薬品名は、製品名もしくは一般名のいずれか

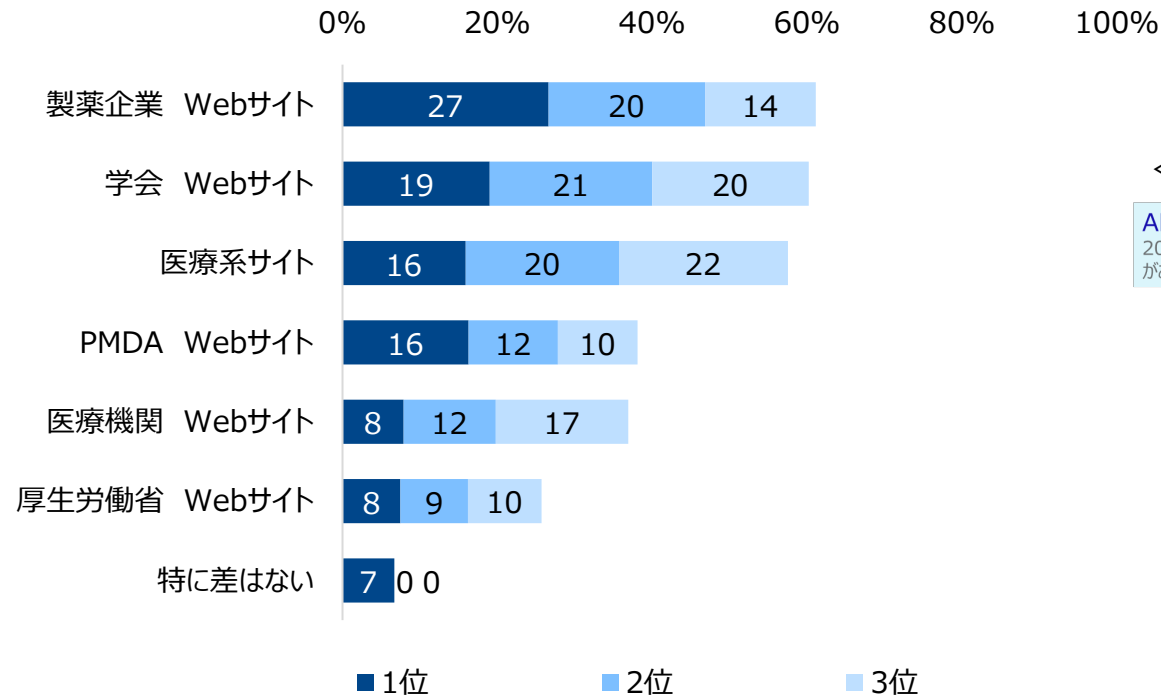
同じ文言が表示された場合に確認するサイト（医師）

医師が検索エンジンで安全性情報を検索し、同じタイトルと概要文が表示された場合に、詳細を確認するサイトは、「製薬会社」が最も多く61%、次いで「学会サイト・ガイドライン」、「医療系」のWebサイトが半数以上を占めた。

医師

医師 全体 n=252

同じ文言が表示された場合に確認するサイト



<提示資料>

ABC錠 副作用について

2021/12/1 - ABC錠の重大な副作用として、間質性肺疾患（1.8%）があらわれることがあります。初期症状として発熱、咳、息苦しい、息切れ等が ...

Q29.検索エンジンで検索した結果、以下の情報が上位に表示されました。いずれのサイトでも以下のような同じ文言が表示された場合に、どのサイトから順番に確認しますか？
上から3つ順位を選択して下さい。

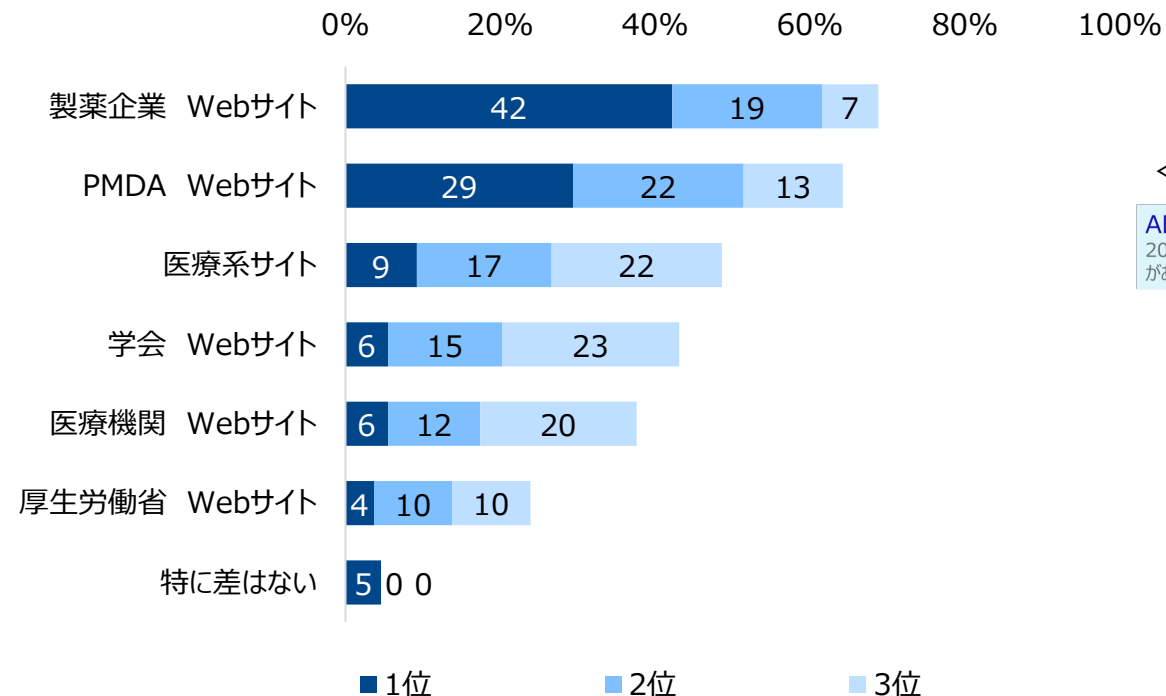
同じ文言が表示された場合に確認するサイト（薬剤師）

薬剤師が検索エンジンで安全性情報を検索し、同じタイトルと概要文が表示された場合に詳細を確認するサイトは、「製薬会社」が最も多く69%、次いで「PMDA」のWebサイトが64%を占めた。

薬剤師

薬剤師 全体 n=109

同じ文言が表示された場合に確認するサイト



<提示資料>

ABC錠 副作用について

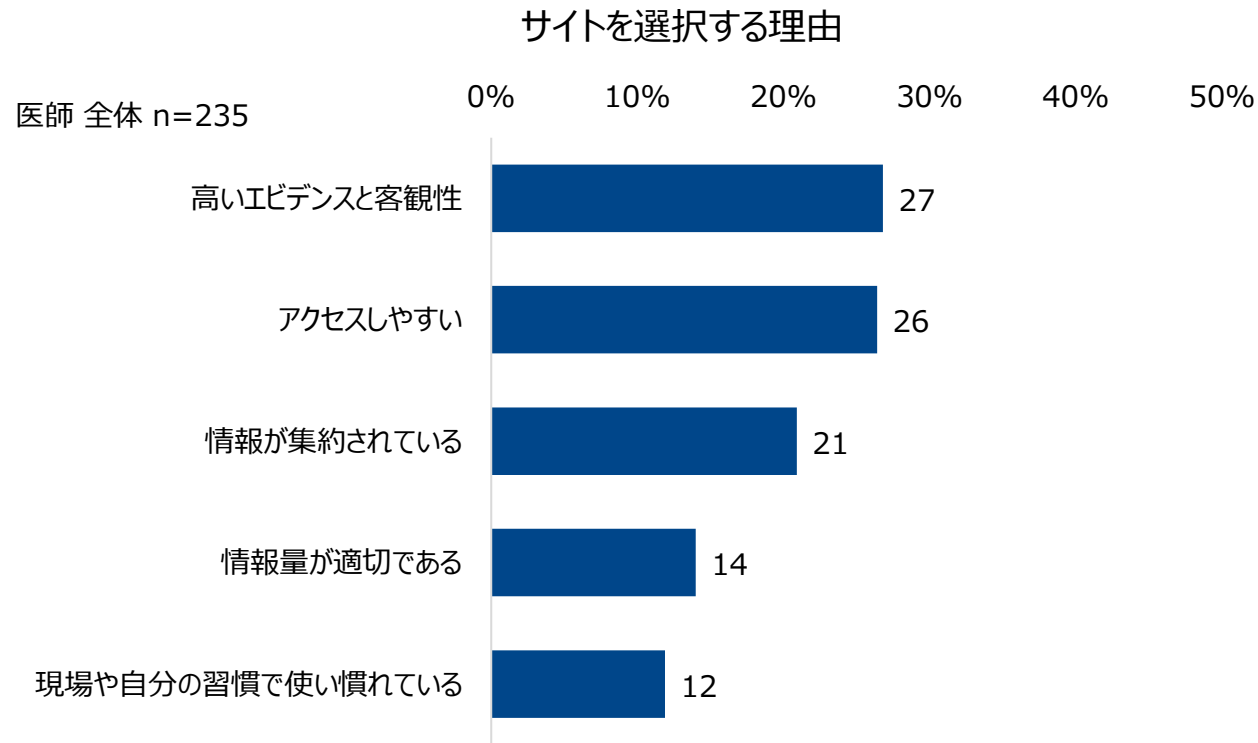
2021/12/1 - ABC錠の重大な副作用として、間質性肺疾患（1.8%）があらわれることがあります。初期症状として発熱、咳、息苦しい、息切れ等が ...

Q29. 検索エンジンで検索した結果、以下の情報が上位に表示されました。いずれのサイトでも以下のような同じ文言が表示された場合に、どのサイトから順番に確認しますか？
上から3つ順位を選択して下さい。

サイトを選択する理由（医師）

同じタイトルと概要文が表示された場合に、医師が特定のWebサイトを選択する理由は、「高いエビデンスと客観性」と「アクセスしやすい」が30%近くを占めた。

医師

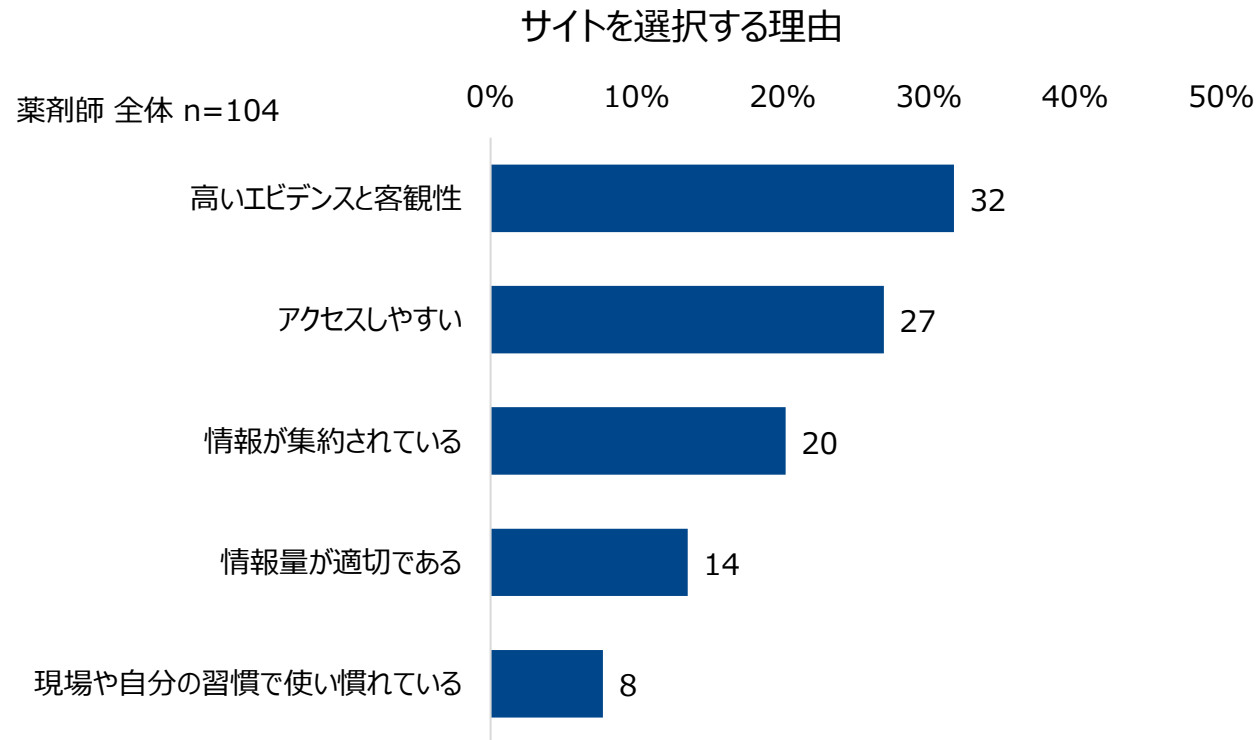


Q30. 前の設問で回答いただいた順番でサイトを選択する理由を1つ選択して下さい。

サイトを選択する理由（薬剤師）

同じタイトルと概要文が表示された場合に、薬剤師が特定のWebサイトを選択する理由は、「高いエビデンスと客観性」と「アクセスしやすい」が30%近くを占めた。

薬剤師



Q30. 前の設問で回答いただいた順番でサイトを選択する理由を1つ選択して下さい。

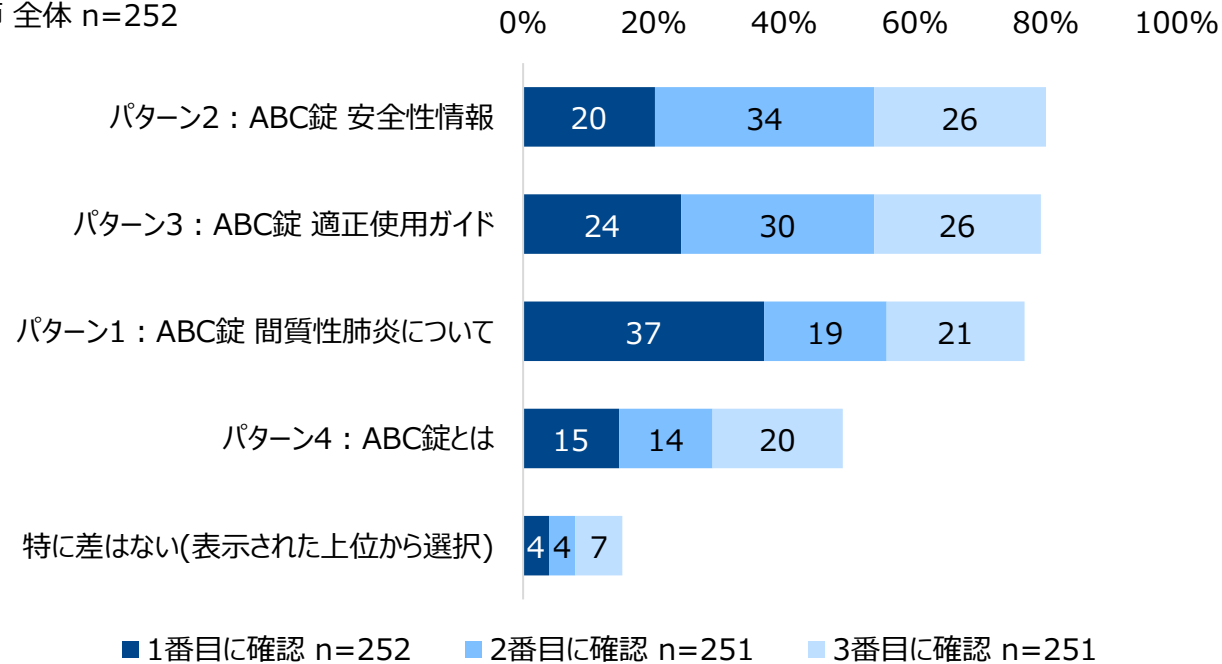
検索結果を確認する順番（医師）

安全性情報の検索結果として同じタイトルと概要文が表示された場合に、医師が1番目に確認するのは「製品名＋副作用名」で37%、次いで、「製品名＋適正使用ガイド」、「製品名＋安全性情報」であった。

情報確認の順番

医師

医師 全体 n=252



<提示資料>

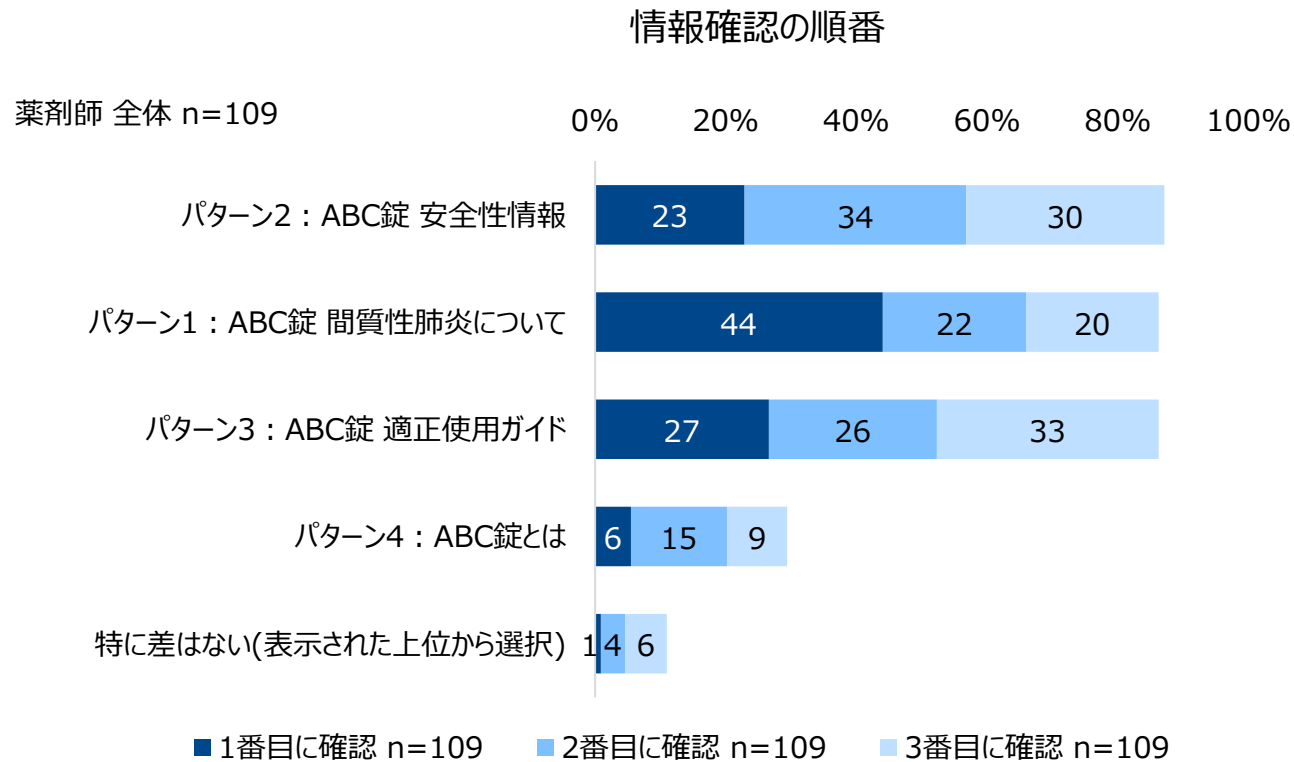
- パターン1** [ABC錠 間質性肺炎について](#)
 2021/12/1 - ABC錠の重大な副作用として、間質性肺疾患（1.8%）があらわれることがあります。初期症状として発熱、咳、息苦しい、息切れ等が ...
- パターン2** [ABC錠 安全性情報](#)
 2021/12/1 - ABC錠の重大な副作用として、間質性肺疾患（1.8%）があらわれることがあります。初期症状として発熱、咳、息苦しい、息切れ等が ...
- パターン3** [ABC錠 適正使用ガイド](#)
 2021/12/1 - ABC錠の重大な副作用として、間質性肺疾患（1.8%）があらわれることがあります。初期症状として発熱、咳、息苦しい、息切れ等が ...
- パターン4** [ABC錠とは](#)
 2021/12/1 - ABC錠の重大な副作用として、間質性肺疾患（1.8%）があらわれることがあります。初期症状として発熱、咳、息苦しい、息切れ等が ...

Q31. 「ABC錠の間質性肺炎」について知りたい場面で、次の検索の結果が表示された場合、どの情報を順番に確認しますか？
 （情報源問わず。タイトル以外の文章はいずれも同じ場合）

検索結果を確認する順番（薬剤師）

安全性情報の検索結果として同じタイトルと概要文が表示された場合に、薬剤師が1番目に確認するのは、「製品名+副作用名」で44%、次いで、「製品名+適正使用ガイド」、「製品名+安全性情報」であった。

薬剤師



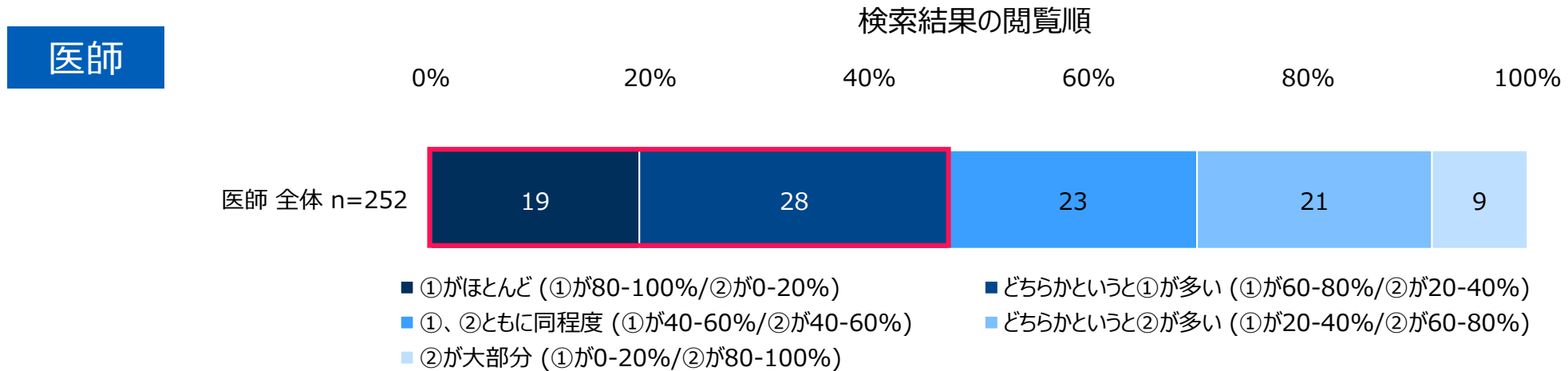
<提示資料>

- パターン1 **ABC錠 間質性肺炎について**
2021/12/1 - ABC錠の重大な副作用として、間質性肺疾患（1.8%）があらわれることがあります。初期症状として発熱、咳、息苦しい、息切れ等が ...
- パターン2 **ABC錠 安全性情報**
2021/12/1 - ABC錠の重大な副作用として、間質性肺疾患（1.8%）があらわれることがあります。初期症状として発熱、咳、息苦しい、息切れ等が ...
- パターン3 **ABC錠 適正使用ガイド**
2021/12/1 - ABC錠の重大な副作用として、間質性肺疾患（1.8%）があらわれることがあります。初期症状として発熱、咳、息苦しい、息切れ等が ...
- パターン4 **ABC錠とは**
2021/12/1 - ABC錠の重大な副作用として、間質性肺疾患（1.8%）があらわれることがあります。初期症状として発熱、咳、息苦しい、息切れ等が ...

Q31. 「ABC錠の間質性肺炎」について知りたい場面で、次の検索の結果が表示された場合、どの情報を順番に確認しますか？
(情報源問わず。タイトル以外の文章はいずれも同じ場合)

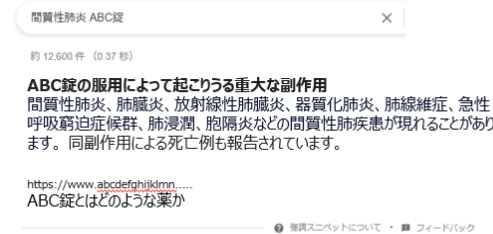
検索結果の確認順位（医師）

医師が安全性情報の検索結果を確認する際、検索結果を一通り見て最も適切な情報を見ることに比べ、「まずは最上位に表示されたものから見る（60-100%）」人が47%とやや多かった。



<提示資料>

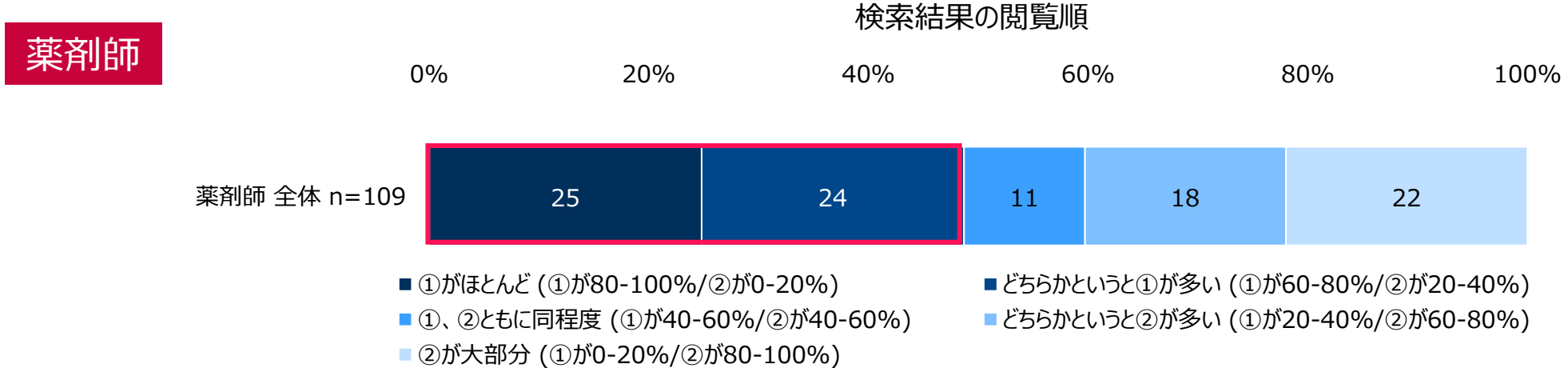
- ①まずは最上位に表示されたものから見る
- ②検索結果を一通りみて最も適切な情報を見る



Q32. 「ABC錠の間質性肺炎」について知りたい場面で、検索結果の最上位に以下が表示されました。以降にも検索結果はあるものとして、どのような順番で閲覧しますか？

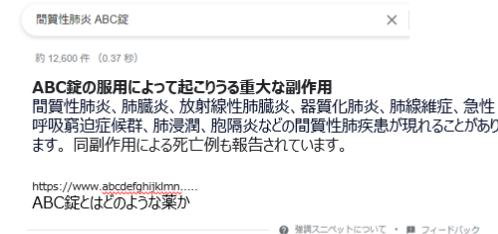
検索結果の確認順位（薬剤師）

薬剤師が安全性情報の検索結果を確認する際、検索結果を一通り見て最も適切な情報を見ることに比べ、「まずは最上位に表示されたものから見る（60-100%）」人が49%とやや多かった。



<提示資料>

- ①まずは最上位に表示されたものから見る
- ②検索結果を一通りみて最も適切な情報を見る



Q32. 「ABC錠の間質性肺炎」について知りたい場面で、検索結果の最上位に以下が表示されました。以降にも検索結果はあるものとして、どのような順番で閲覧しますか？

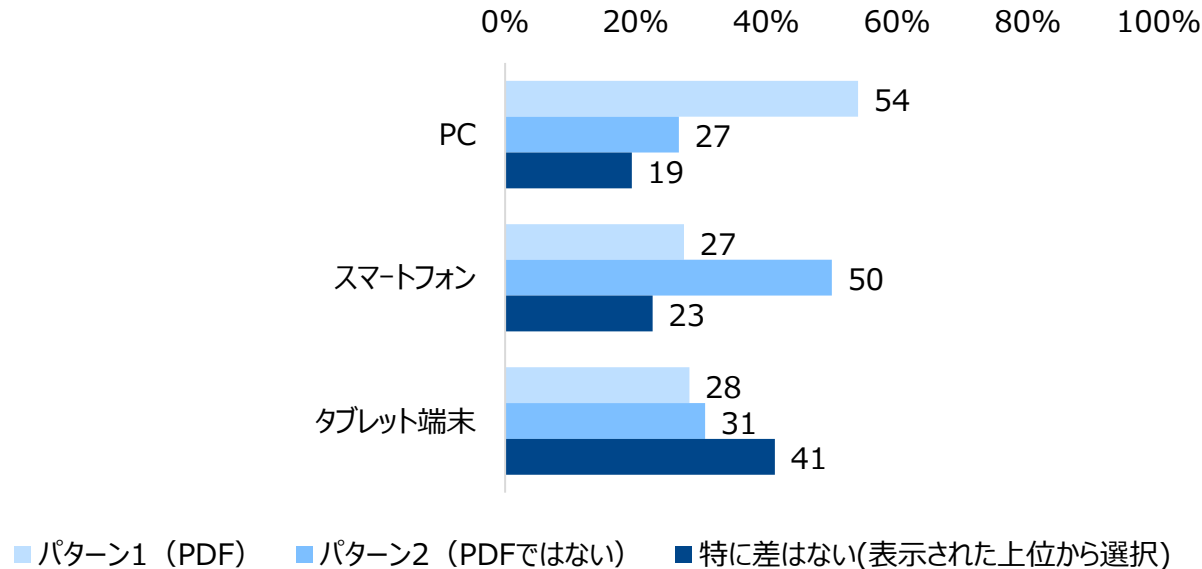
検索結果の表示形式（PDFか否か）と確認手段（医師） 3

医師が安全性情報の検索結果を確認する際、PCの場合は「PDF」、スマートフォンの場合は「PDFではない」が好まれた。一方で、タブレット端末ではPDFか否かで差は認められなかった。

医師

医師 全体 n=252

検索結果の表示形式（PDFか否か）による確認手段



<提示資料>

- パターン1 [ABC錠 間質性肺炎について PDF](#)
2021/12/1 - ABC錠の重大な副作用として、間質性肺疾患（1.8%）があらわれることがあります。初期症状として発熱、咳、息苦しい、息切れ等が ...
- パターン2 [ABC錠 間質性肺炎について](#)
2021/12/1 - ABC錠の重大な副作用として、間質性肺疾患（1.8%）があらわれることがあります。初期症状として発熱、咳、息苦しい、息切れ等が ...

Q33. 「ABC錠の間質性肺炎」について知りたい場面で、次の検索結果が表示された場合、PDFありとなしのどちらの情報を選択しますか？
PC、スマートフォン、タブレット端末から見る時にそれぞれ最初にクリックするものを教えて下さい。

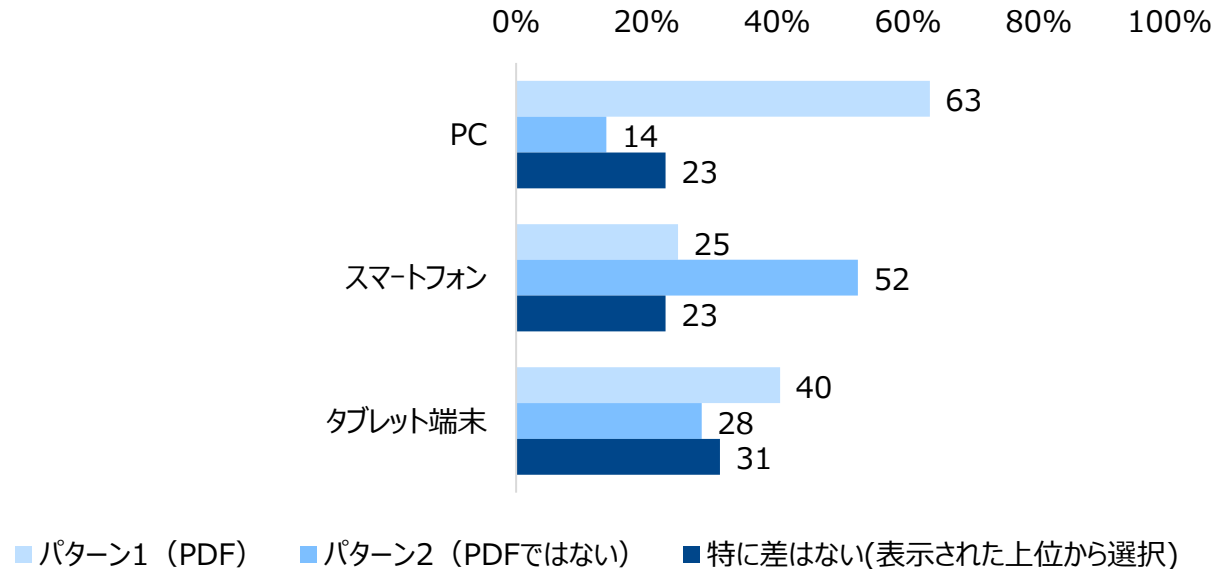
検索結果の表示形式（PDFか否か）と確認手段（薬剤師）

薬剤師が安全性情報の検索結果を確認する際、PCの場合は「PDF」、スマートフォンの場合は「PDFではない」が好まれた。一方で、タブレット端末ではPDFか否かで差は認められなかった。

薬剤師

検索結果の表示形式（PDFか否か）による確認手段

薬剤師 全体 n=109



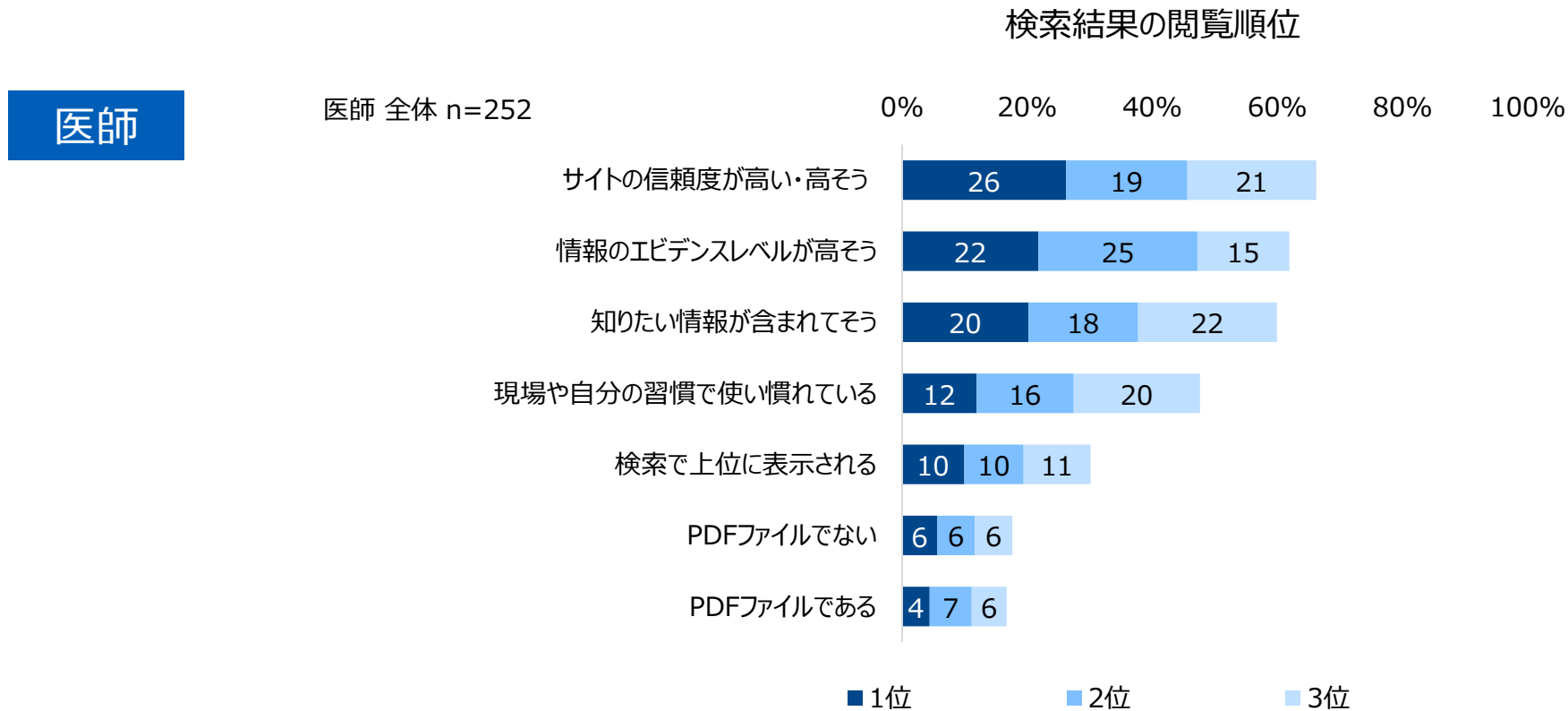
<提示資料>

- パターン1 [ABC錠 間質性肺炎について PDF](#)
 2021/12/1 - ABC錠の重大な副作用として、間質性肺疾患（1.8%）があらわれることがあります。初期症状として発熱、咳、息苦しい、息切れ等が ...
- パターン2 [ABC錠 間質性肺炎について](#)
 2021/12/1 - ABC錠の重大な副作用として、間質性肺疾患（1.8%）があらわれることがあります。初期症状として発熱、咳、息苦しい、息切れ等が ...

Q33. 「ABC錠の間質性肺炎」について知りたい場面で、次の検索結果が表示された場合、PDFありとなしのどちらの情報を選択しますか？
 PC、スマートフォン、タブレット端末から見る時にそれぞれ最初にクリックするものを教えてください。

検索結果の確認基準（医師）

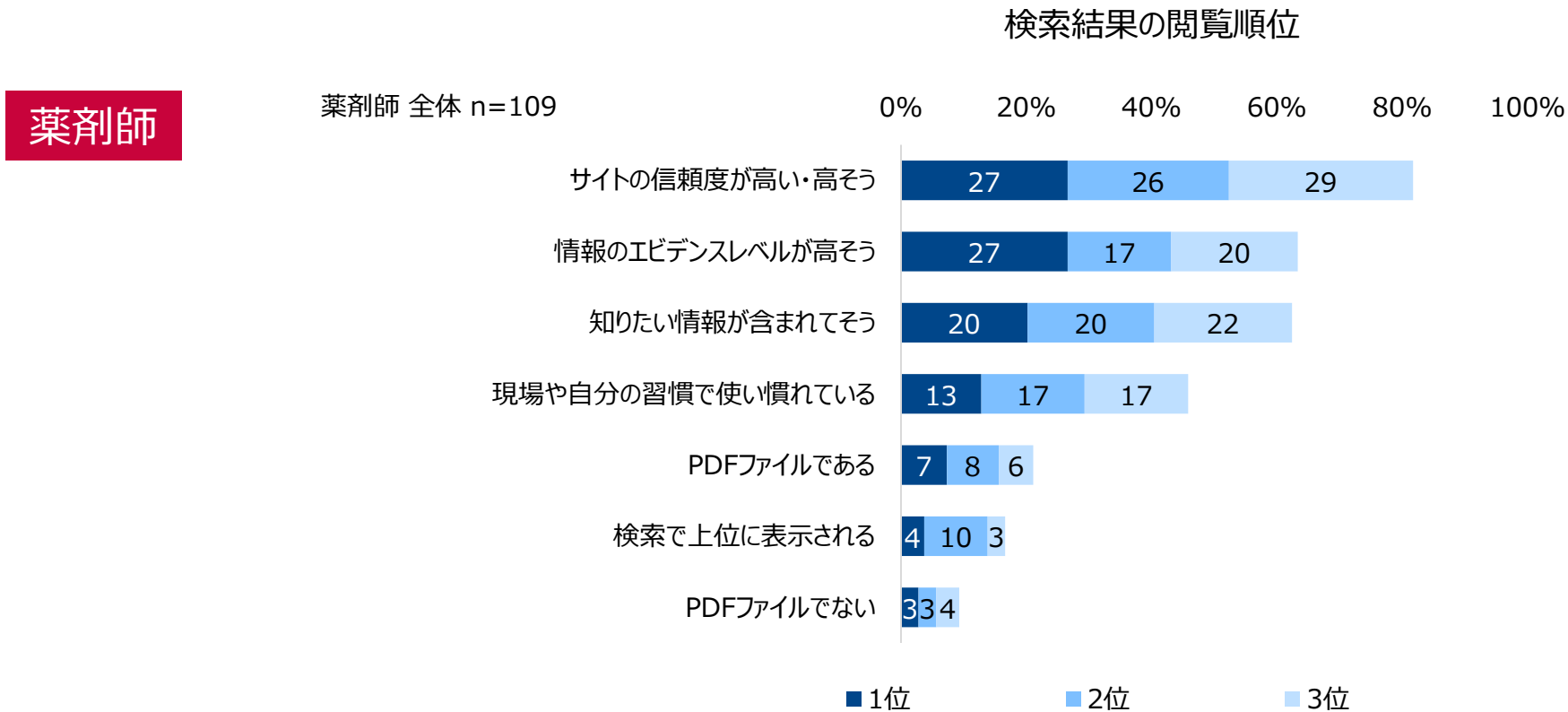
医師が安全性情報を検索する際のサイトの閲覧基準は、「サイトの信頼度」が66%と最も高く、次いで「エビデンスレベルの高さ」、「知りたい情報が含まれている」と続いた。



Q34. 「ABC錠の間質性肺炎」について知りたい場面で、検索結果を閲覧する基準について上から3つ順位を選択して下さい。

検索結果の確認基準（薬剤師）

薬剤師が安全性情報を検索する際のサイトの閲覧基準は、「サイトの信頼度」が82%と最も高く、次いで「エビデンスレベルの高さ」、「知りたい情報が含まれている」と続いた。

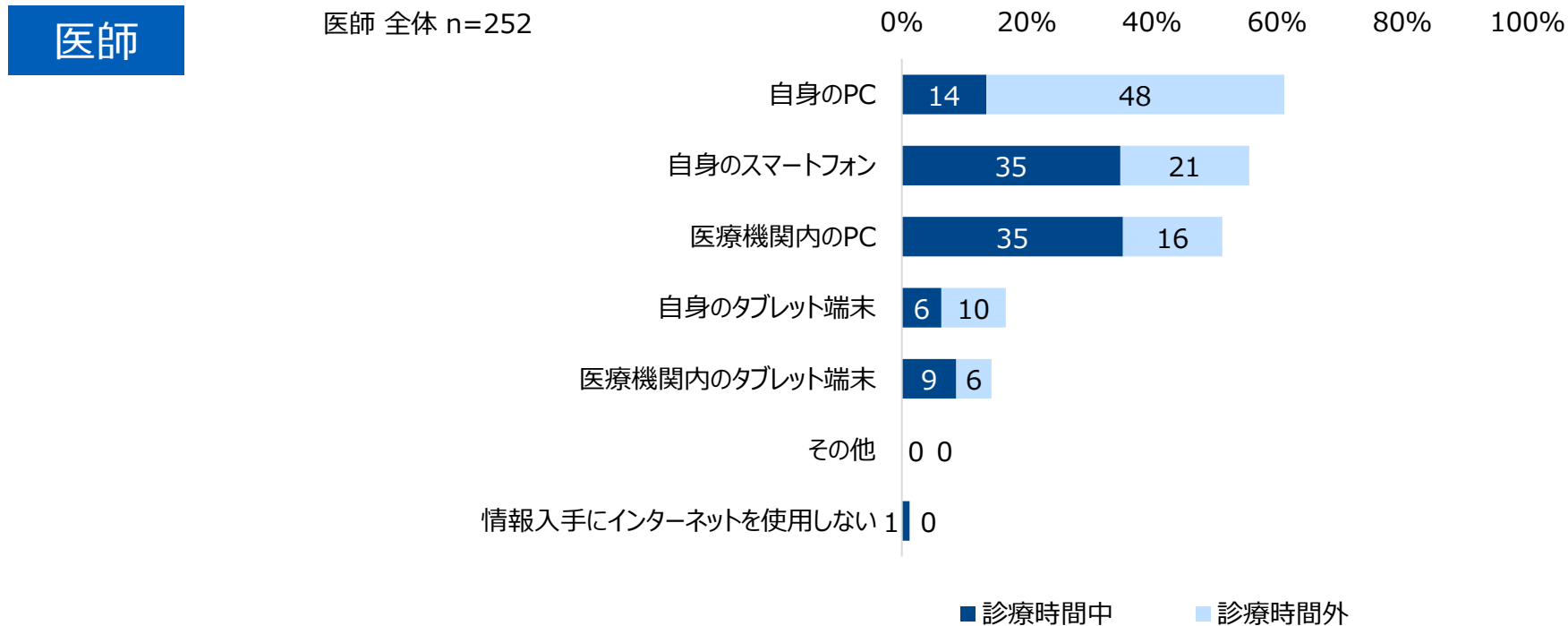


Q34. 「ABC錠の間質性肺炎」について知りたい場面で、検索結果を閲覧する基準について上から3つ順位を選択して下さい。

診療時間中・外でインターネット検索に利用する端末（医師）

医師がインターネットの情報にアクセスする場合、診療時間中は「自身のスマートフォン」、「医療機関のPC」がそれぞれ35%と最も多く、診療時間外は「自身のPC」が48%と最も利用されていた。

インターネット上の情報にアクセスする際に最も利用する端末



Q35.インターネット上の情報にアクセスする際、診療時間中と診療時間外で、最も利用する端末をそれぞれ1つ選択して下さい。

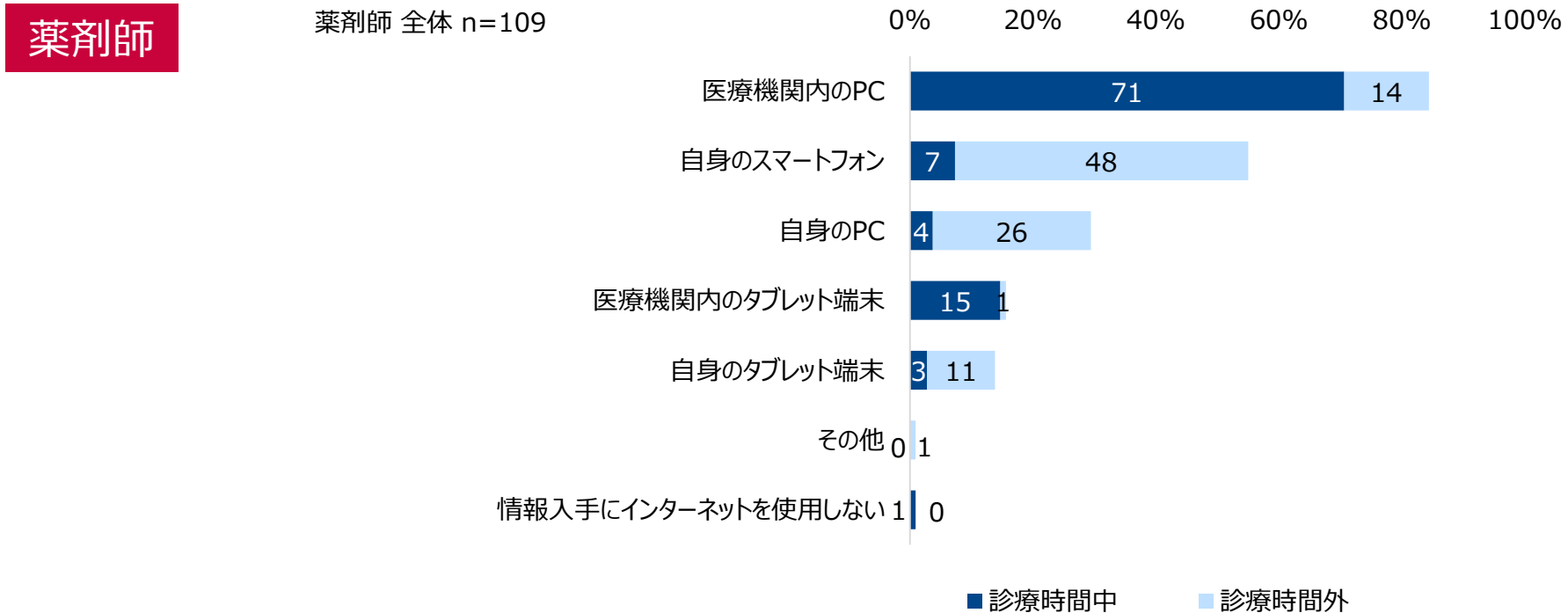
※診療時間中： 外来や患者受け入れ準備中の忙しい時を想定下さい

※診療時間外： 自分の時間を比較的確保できる場合を想定下さい

診療時間中・外でインターネット検索に利用する端末（薬剤師）

薬剤師がインターネットの情報にアクセスする場合、診療時間中は「医療機関のPC」が71%と最も多く、診療時間外は「自身のスマートフォン」が48%と最も利用されており、医師と傾向が異なった。

インターネット上の情報にアクセスする際に最も利用する端末



Q35.インターネット上の情報にアクセスする際、診療時間中と診療時間外で、最も利用する端末をそれぞれ1つ選択して下さい。

※診療時間中： 外来や患者受け入れ準備中の忙しい時を想定下さい

※診療時間外： 自分の時間を比較的確保できる場合を想定下さい

4. 患者の情報入手に対する医療従事者の見解

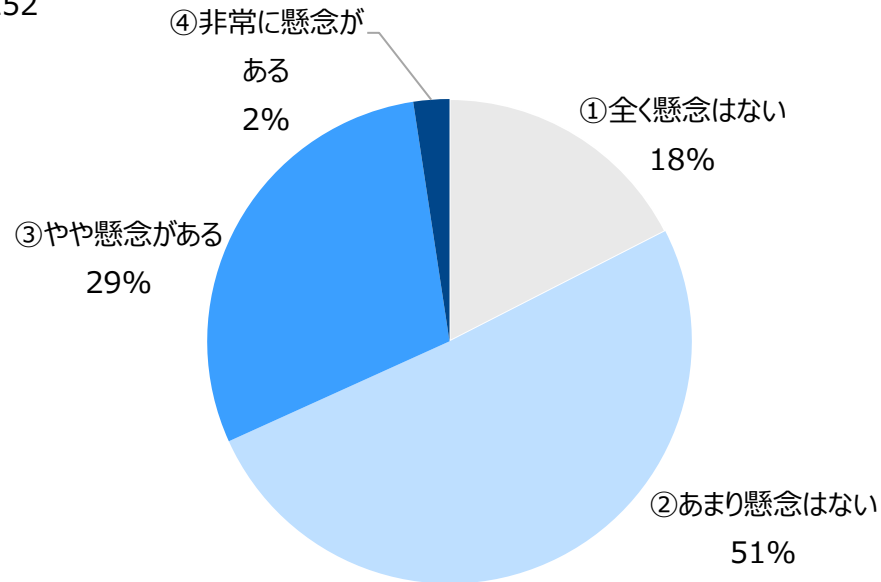
患者がインターネットで情報入手することに対する懸念（医師）

医師では、患者がインターネットで情報入手することに「全く懸念はない～あまり懸念はない」が69%に対し、「やや懸念がある～非常に懸念がある」は32%であった。

患者が処方薬の安全性情報をインターネットより独自に入手することに対する懸念

医師

医師 全体 n=252



Q36.患者さんが、処方薬の安全性情報をインターネットより独自に入手することに対して、懸念はありますか？ご自身の主領域を想定し、1つ選択して下さい。

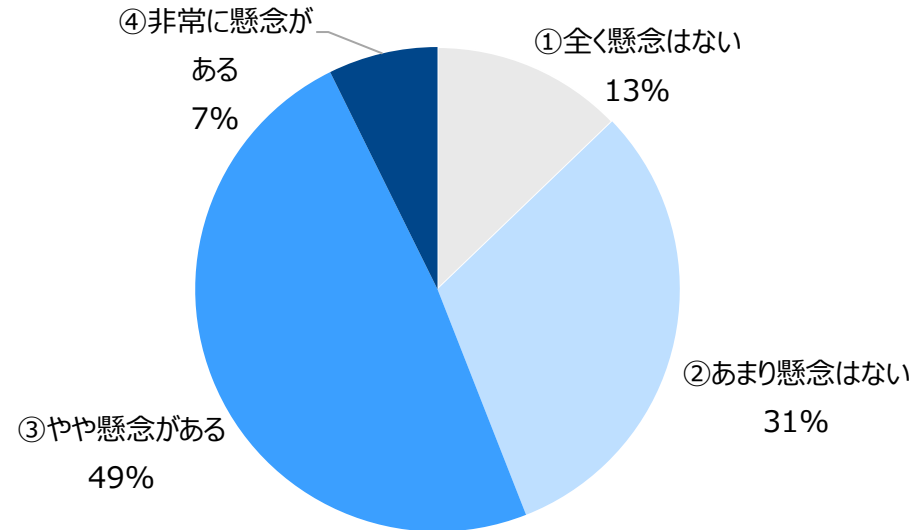
患者がインターネットで情報入手することに対する懸念（薬剤師）

薬剤師では、患者がインターネットで情報入手することに「全く懸念はない～あまり懸念はない」が44%に対し、「やや懸念がある～非常に懸念がある」が半数以上を占めており、医師よりも懸念が大きい傾向であった。

患者が処方薬の安全性情報をインターネットより独自に入手することに対する懸念

薬剤師

薬剤師 全体 n=109

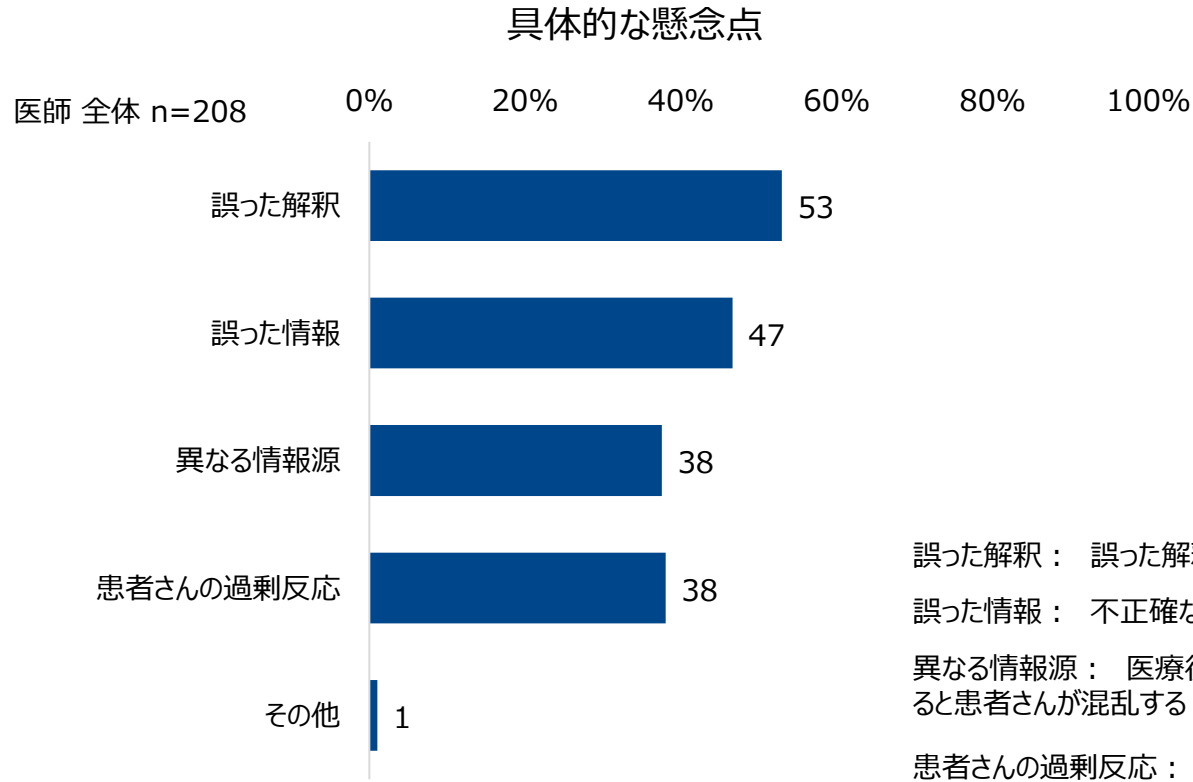


Q36.患者さんが、処方薬の安全性情報をインターネットより独自に入手することに対して、懸念はありますか？ご自身の主領域を想定し、1つ選択して下さい。

具体的な懸念点（医師）

患者がインターネットで情報入手することの懸念点として、
 医師では、「誤った解釈」が最も多く53%、次いで「誤った情報」47%と続いた。

医師

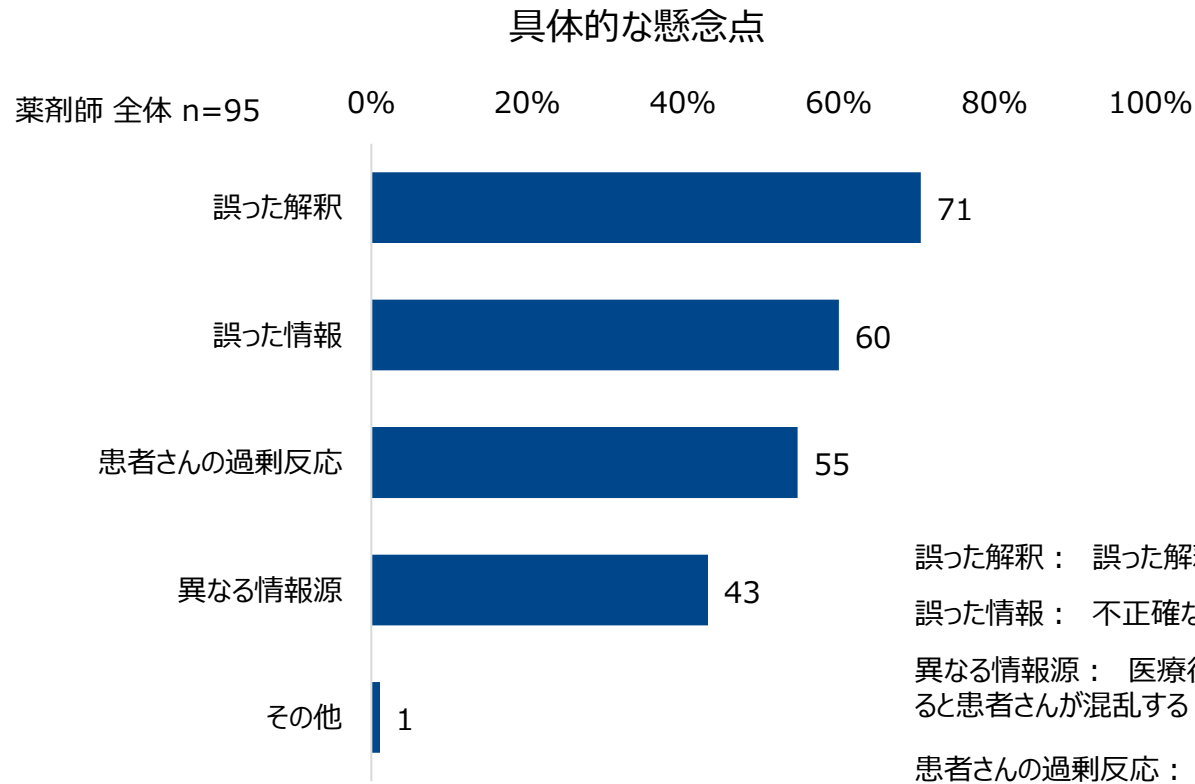


Q37.懸念点について、いずれが該当しますか？（複数回答可）

具体的な懸念点（薬剤師）

患者がインターネットで情報入手することの懸念点として、薬剤師では、「誤った解釈」が最も多く71%、次いで「誤った情報」60%、「患者さんの過剰反応」55%と続いた。

薬剤師

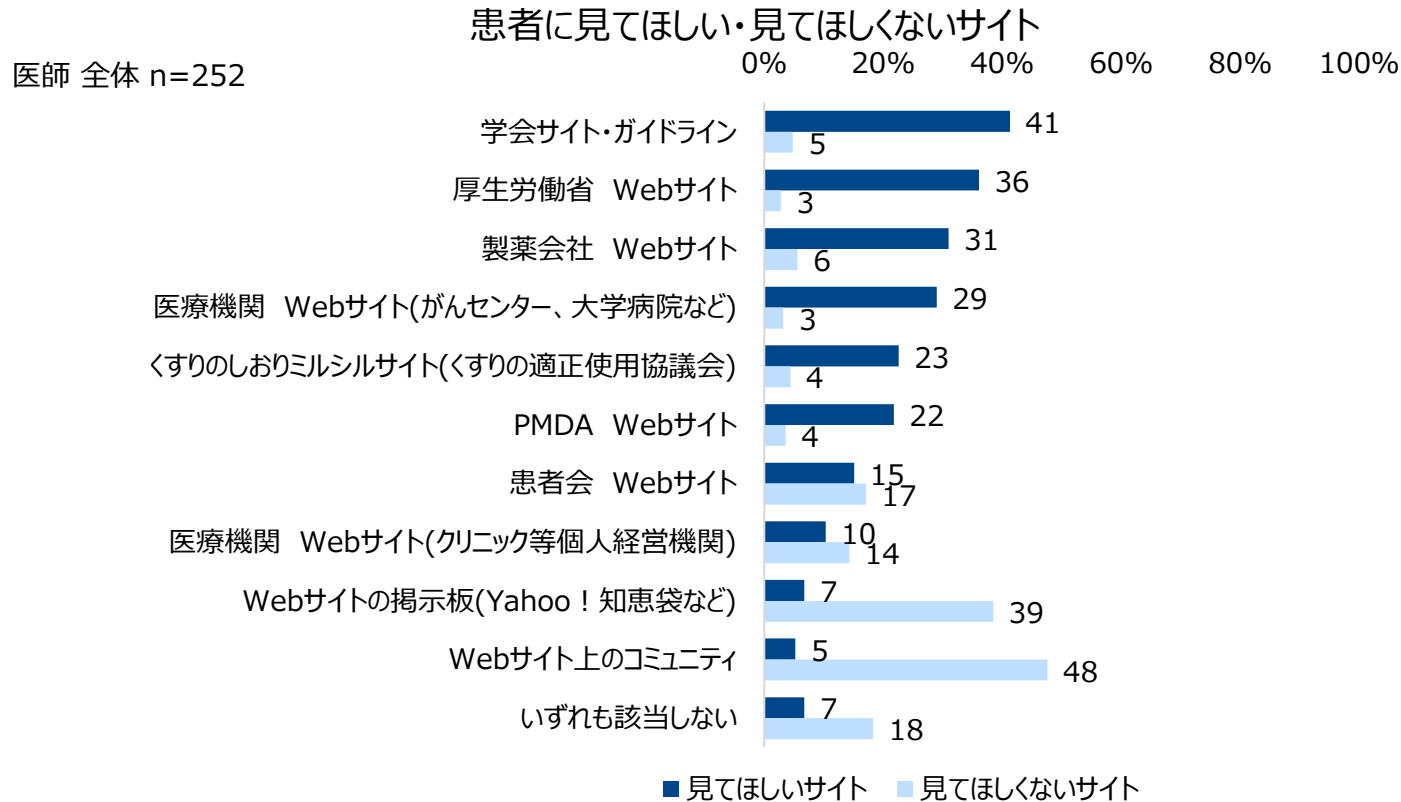


Q37.懸念点について、いずれが該当しますか？（複数回答可）

患者に見てほしい・見てほしくないインターネットサイト（医師）

患者が安全性情報を自ら調べる際、医師が患者に見てほしいインターネットサイトは「学会サイト・ガイドライン」のWebサイトで41%、見てほしくないサイトは「Webサイト上のコミュニティ」が48%と、それぞれ最も多かった。

医師

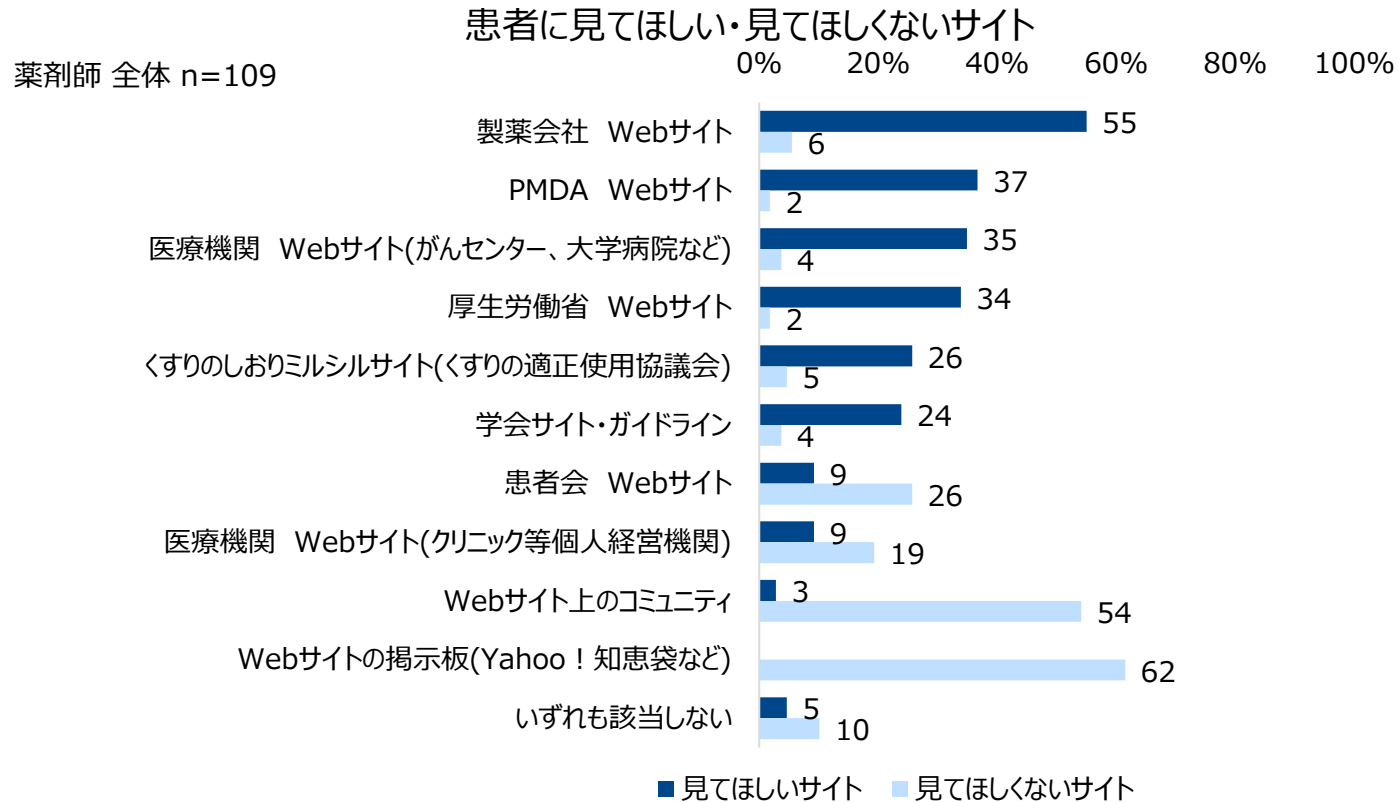


Q38.患者さんが、処方薬の安全性情報をインターネットで独自に入手するとしたら、どのサイトを見てほしいですか？また見てほしくないですか？（複数回答可）

患者に見てほしい・見てほしくないインターネットサイト（薬剤師）

患者が安全性情報を自ら調べる際、薬剤師が患者に見てほしいインターネットサイトは「製薬会社」のWebサイトで55%、見てほしくないサイトは「Webサイト上の掲示板」で62%と、それぞれ最も多かった。

薬剤師



Q38.患者さんが、処方薬の安全性情報をインターネットで独自に入手するとしたら、どのサイトを見てほしいですか？また見てほしくないですか？（複数回答可）

作成担当／編集

リーダー兼担当副部長 拡大幹事

竹本 信也	(中外製薬株式会社)
北川 南都子	(日本イーライリリー株式会社)
篠田 好果	(バルティス ファーマ株式会社)

野口 正浩	(アステラス製薬株式会社)	原田 郁子	(住友ファーマ株式会社)
奥平 可奈子	(エーザイ株式会社)	中西 晋平	(中外製薬株式会社)
富島 さやか	(大塚製薬株式会社)	田中 佐千代	(日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社)
吉田 彩夏	(グラクソ・スミスクライン株式会社)	隅谷 真依	(ファイザー株式会社)

令和5年12月発行

編集

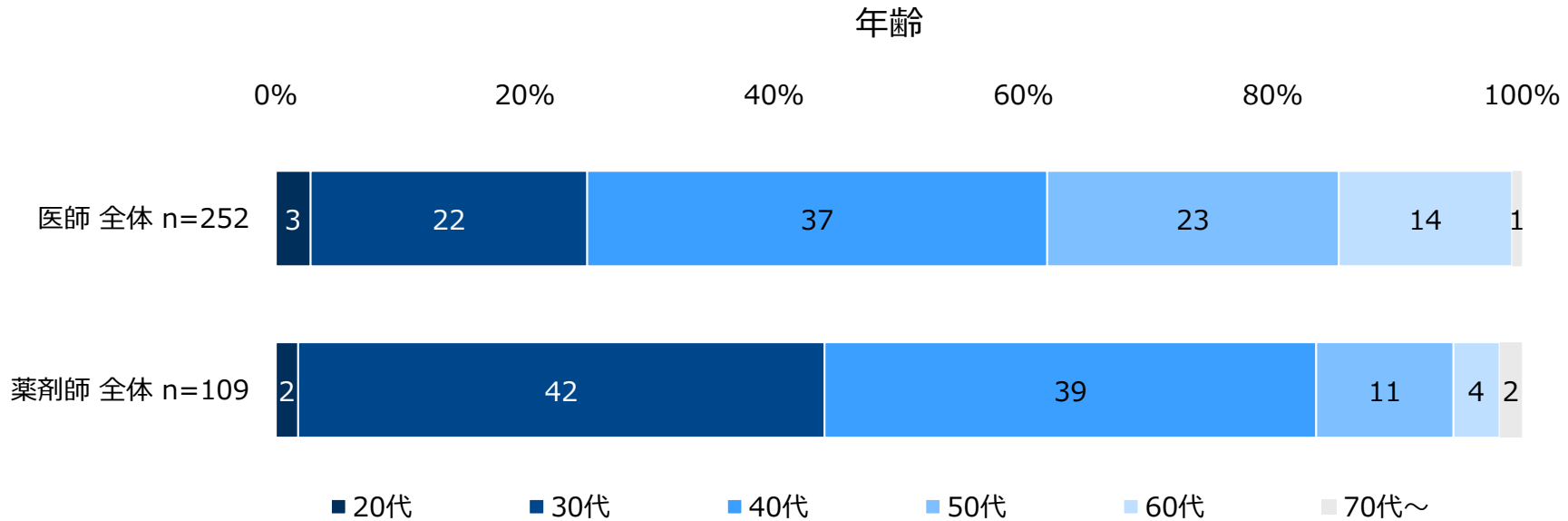
日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 ファーマコビジランス部会 TF1
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-3-11
(日本橋ライフサイエンスビルディング)
TEL：03-3241-0326 FAX：03-3242-1767

APPENDIX

スクリーニング情報

スクリーニング設問：年齢層

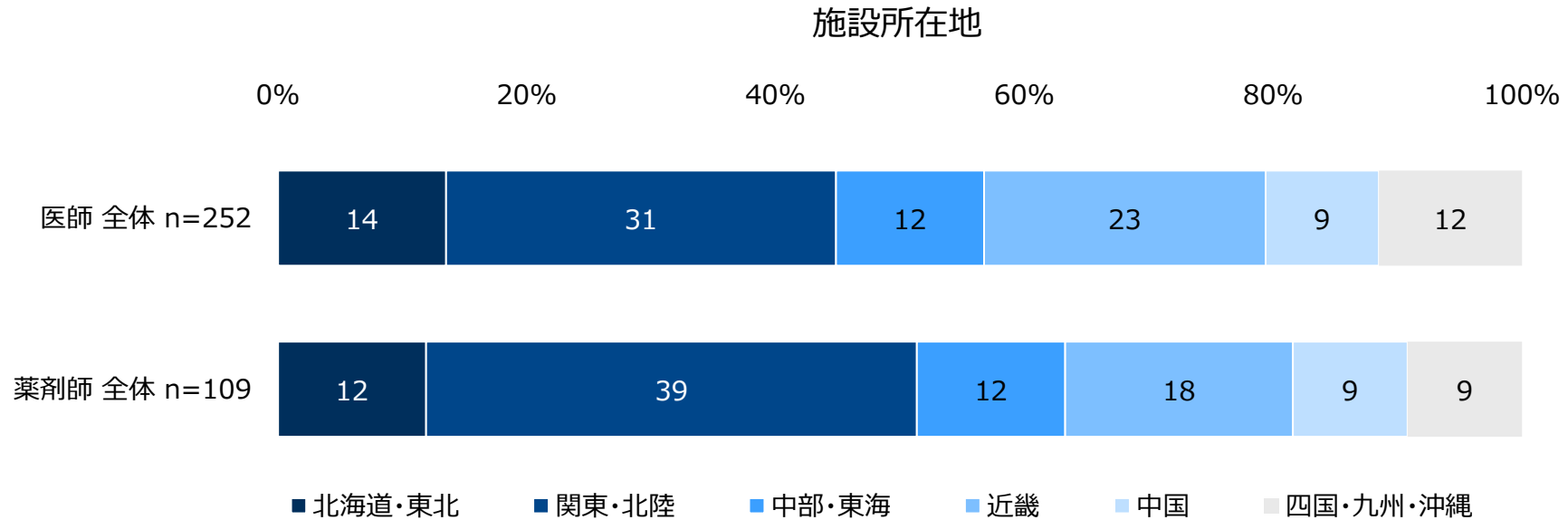
医師は40～50代、薬剤師は30～40代が過半数を占めた。



Q1.あなたの年齢をお知らせ下さい。

スクリーニング設問：勤務先の所在地

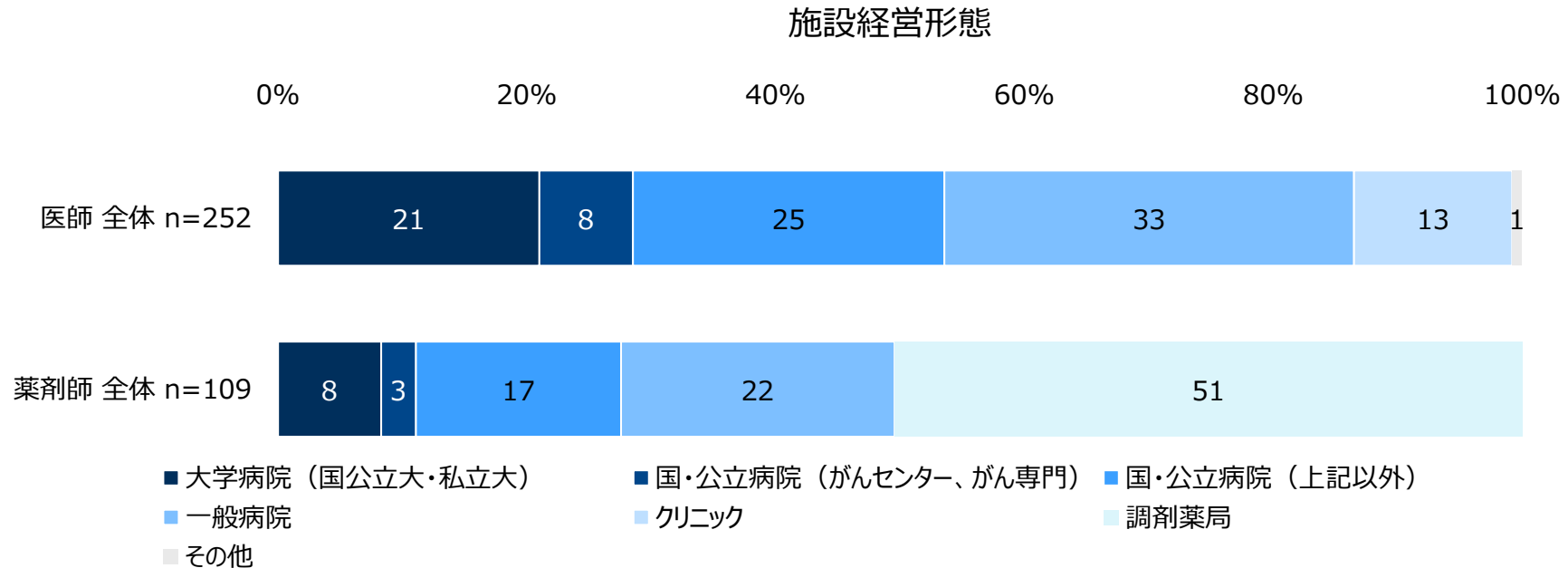
医師・薬剤師共に関東・北陸、次いで近畿が多く、その後は北から南まで広く分布していた。



Q2.あなたが主に勤務している施設のある都道府県をお知らせ下さい。（概ね1週間の50%以上を費やしている施設所在地を1つ選択）

スクリーニング設問：勤務先の経営形態

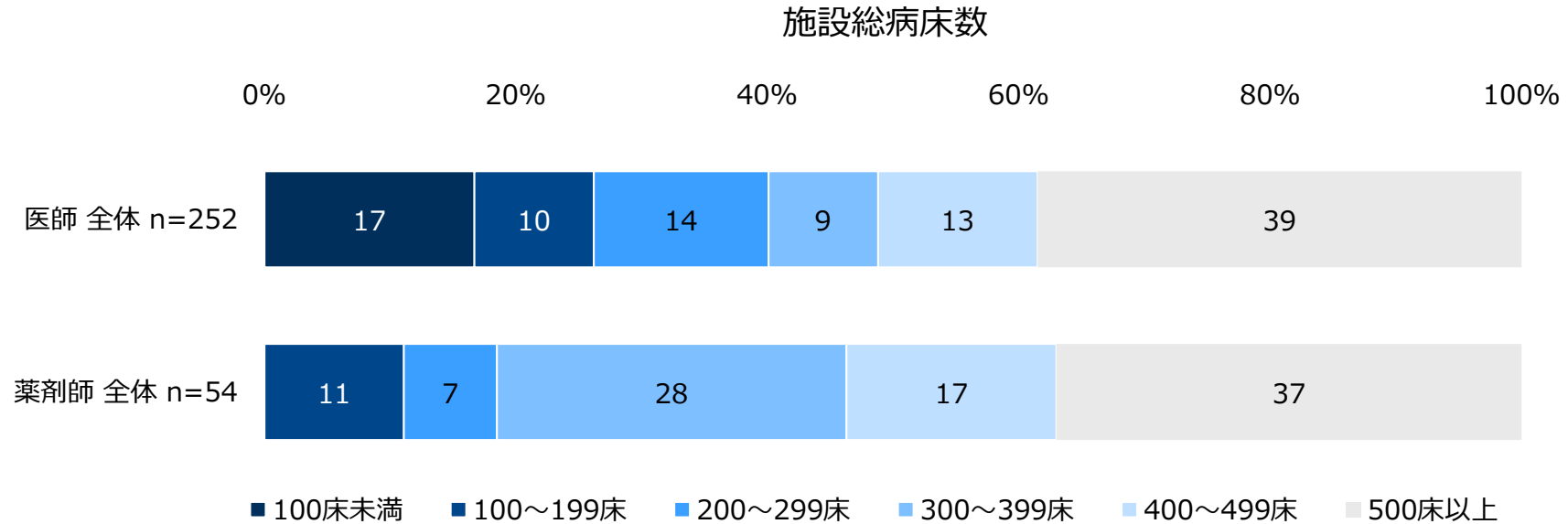
医師は一般病院や国・公立病院が多く、薬剤師は病院と調剤薬局が半々であった。



Q3.あなたが主に勤務している施設経営形態を1つ選択して下さい。（概ね1週間の50%以上を費やしている施設で考えて下さい）

スクリーニング設問：勤務先の病床数

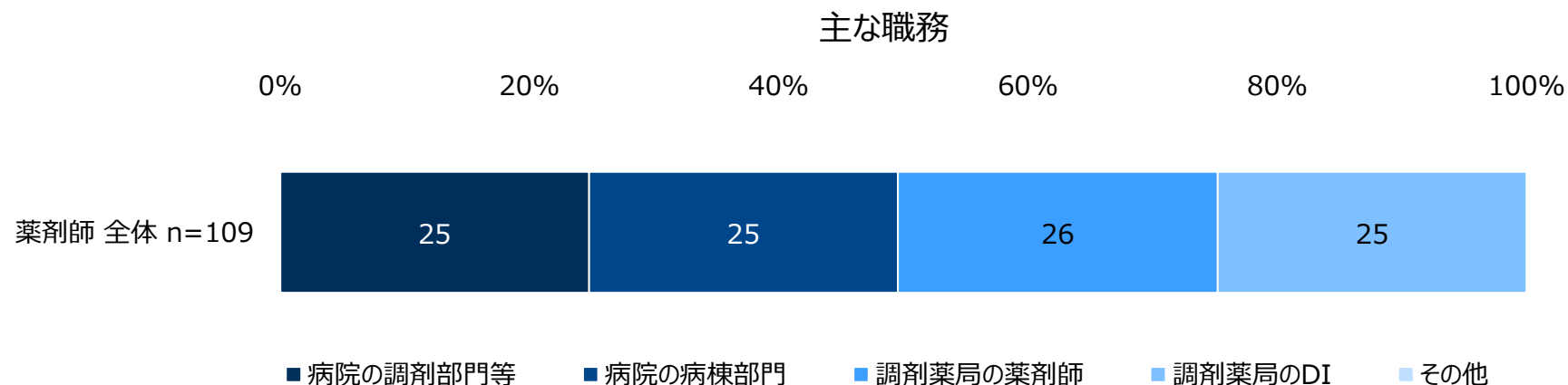
医師・薬剤師共に、500床以上が最も多く、40%弱であった。



Q4.あなたが主に勤務している施設の総病床数を1つ選択して下さい。（概ね1週間の50%以上を費やしている施設で考えて下さい）

スクリーニング設問：主な職務（薬剤師）

病院調剤、病院病棟、調剤薬局調剤、調剤薬局DIがそれぞれ25～26%であった。



Q5.あなたの主な職務を1つ選択して下さい。（概ね1週間の50%以上を費やしている職務で考えて下さい）

スクリーニング設問：主な診療科（医師）

内科が最も多く、次いで内分泌代謝内科・糖尿病科、呼吸器科であった。

主診療科（%）

診療科	医師 全体 n=252 (%)	診療科	医師 全体 n=252 (%)
内科	31	呼吸器外科	1
内分泌代謝内科・糖尿病科	19	産婦人科	1
呼吸器科	11	婦人科	0.4
消化器科（胃腸科）	10	耳鼻いんこう科	3
循環器科	2	皮膚科	1
リウマチ科	1	泌尿器科	3
小児科	3	放射線科	0.4
神経内科	0.4	救命救急	1
外科	9	乳腺科	1
脳神経外科	2	その他	2

Q6.あなたの主診療科を1つ選択して下さい。（概ね1週間の50%以上を費やしている診療科で考えて下さい）

スクリーニング設問：主な診療領域（医師）

悪性腫瘍が最も多く、次いで代謝・内分泌、呼吸器であった。

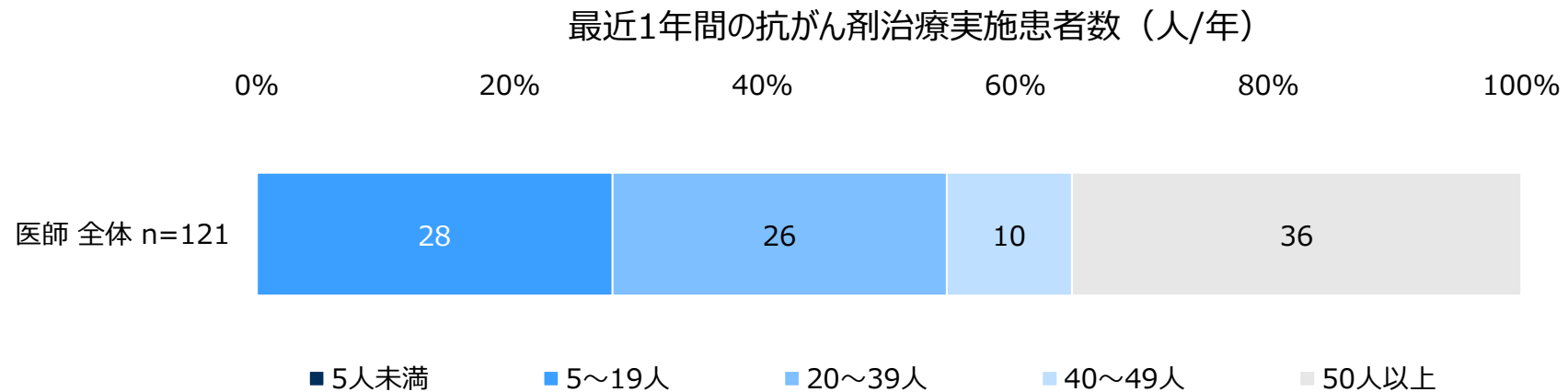
薬物治療を実施している診療領域（%）

診療領域	医師 全体 n=252 (%)	診療領域	医師 全体 n=252 (%)
悪性腫瘍	48	その他免疫・炎症	0.4
呼吸器	8	神経・筋	2
循環器	4	精神・中枢神経	0.4
代謝・内分泌	21	疼痛	0.4
腎	3	血液	1
消化器	3	感染症・ワクチン	7
皮膚	0.4	その他	1
骨・関節	0.4		

Q7. 次の診療領域のうち、薬物治療を実施している診療領域を1つ選択して下さい。悪性腫瘍（肉腫、造血器悪性腫瘍）を診ている場合は、個別の診療領域ではなく「悪性腫瘍（肉腫、造血器悪性腫瘍）」を選択して下さい。（概ね診療の50%以上を費やしている疾病と考えて下さい）

スクリーニング設問：年間の治療患者数（悪性腫瘍・医師）

悪性腫瘍の診療医師において、最近1年間の抗がん剤治療実施患者数は50人以上が最も多かった。



Q8.あなた自身で、最近1年間に抗がん剤治療を実施した患者数を1つ選択して下さい。（がん種は問いません）

スクリーニング設問：年間の治療がん種（悪性腫瘍・医師）

悪性腫瘍の診療医師において、最近1年間に抗がん剤治療を実施したがん種は肺が最も多かった。

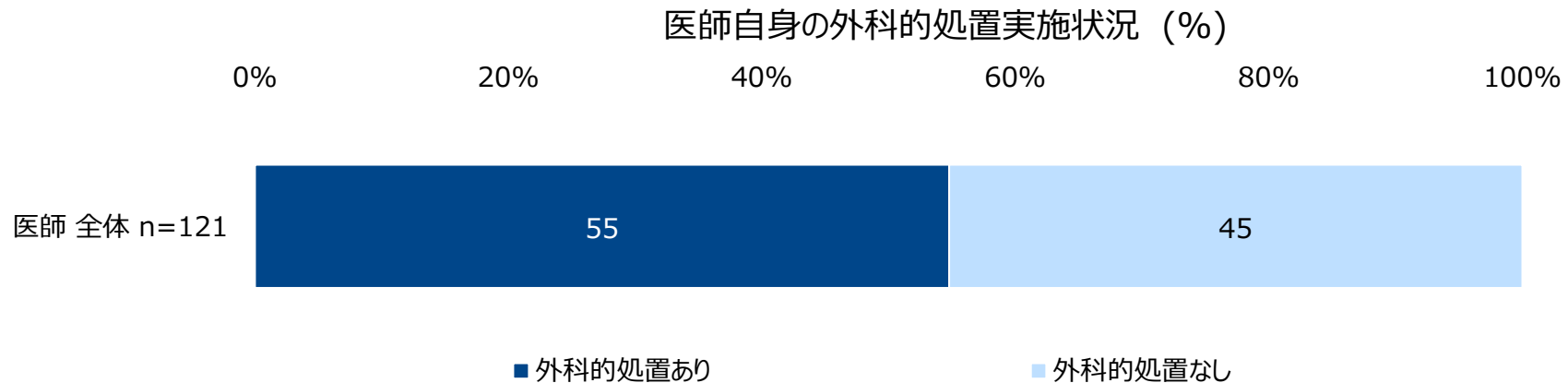
最近1年間に抗がん剤治療を実施したがん種（%）

がん種	医師 全体 n=121 (%)	がん種	医師 全体 n=121 (%)
肺	22	白血病	3
胃	11	多発性骨髄腫	1
膵臓	9	脳・中枢神経	3
肝臓	5	皮膚	2
前立腺	3	甲状腺	1
胆のう・胆管	1	結腸	12
食道	1	直腸	2
悪性リンパ腫	11	乳腺・乳房	3
膀胱	1	子宮	2
腎・尿路（膀胱除く）	3	卵巣	2
口腔・咽頭	5	その他	-

Q9.最近1年間に抗がん剤治療を実施したがん種のうち最も多いものを1つ選択して下さい。（出典：公益財団法人 がん研究振興財団「がんの統計2022」より部位別がん）

スクリーニング設問：外科的処置の経験（悪性腫瘍・医師）

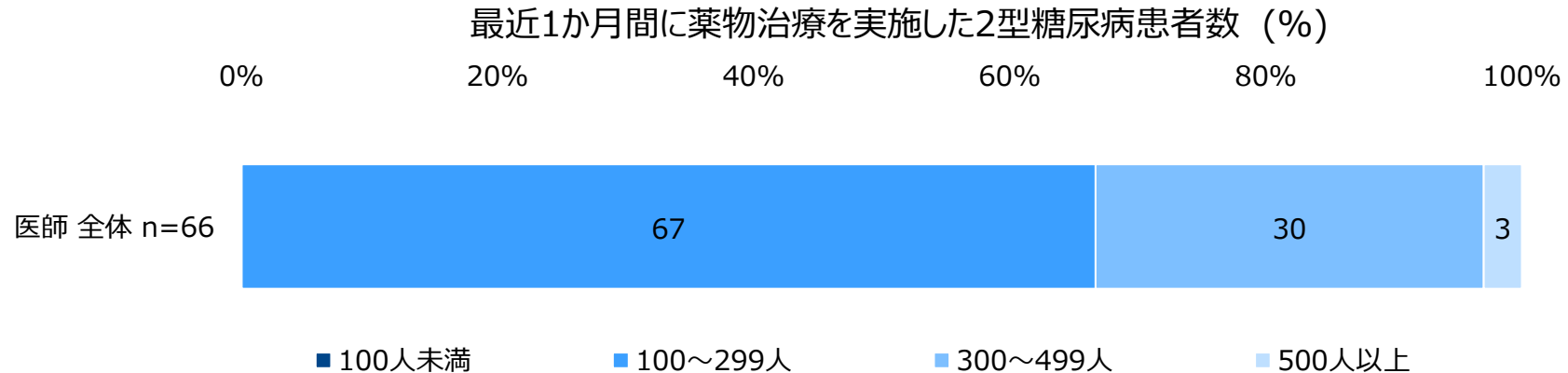
悪性腫瘍の診療医師において、外科的処置を実施している医師は55%であった。



Q10.抗がん剤治療を実施されている場合、あなた自身が手術等の外科的処置を実施している状況を選択して下さい。

スクリーニング設問：月間の患者数（糖尿病・医師）

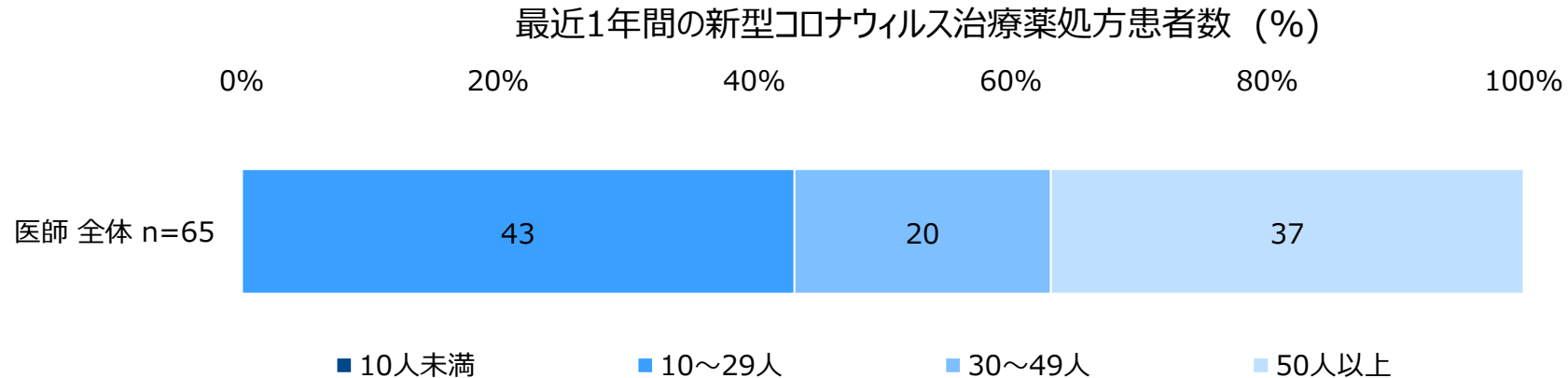
糖尿病の診療医師において、最近1か月間に薬物治療した2型糖尿病患者は100～299人が最も多かった。



Q11.あなた自身で、最近1か月間に薬物治療している2型糖尿病患者の患者数を1つ選択して下さい。

スクリーニング設問：年間の新型コロナ治療数（感染症・医師）

感染症の診療医師において、最近1年間の新型コロナ治療薬処方患者数は10～29人が最も多かった。

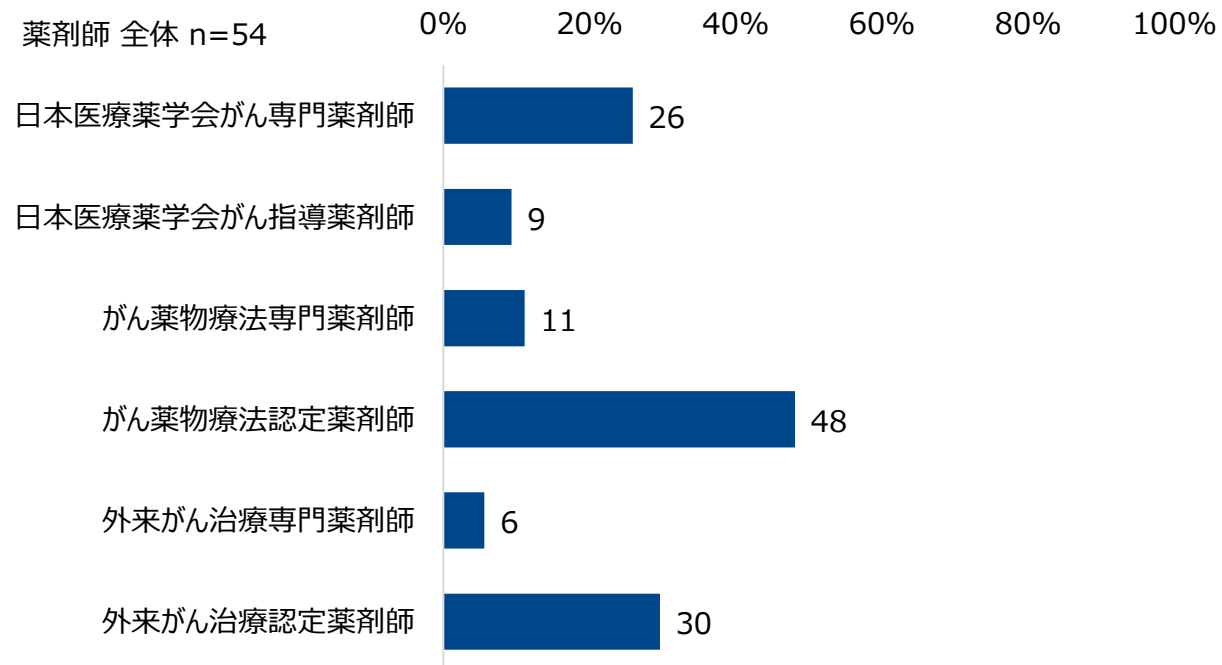


Q13.あなた自身で、最近1年間に新型コロナウイルス感染患者に新型コロナウイルス治療薬（新型コロナウイルス感染症に対する適応の承認を取得している医薬品）を処方している患者数を1つ選択して下さい。

スクリーニング設問：専門資格の有無（悪性腫瘍・薬剤師）

病院の薬剤師において、所有するがん領域専門資格はがん薬物療法認定薬剤師が最も多かった。

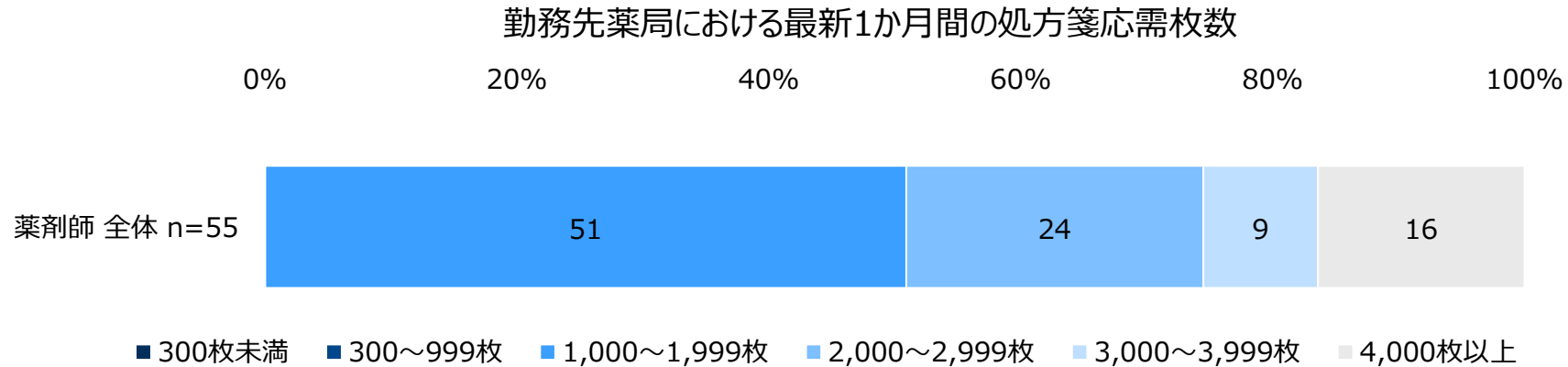
がん領域薬物療法の専門薬剤師資格の資格名



Q14.がん領域の薬物療法の専門薬剤師資格の有無を選択して下さい。「あり」の場合は、その資格名を選択して下さい（資格名のみ複数回答可）。

スクリーニング設問：月間の処方箋応需数（薬剤師）

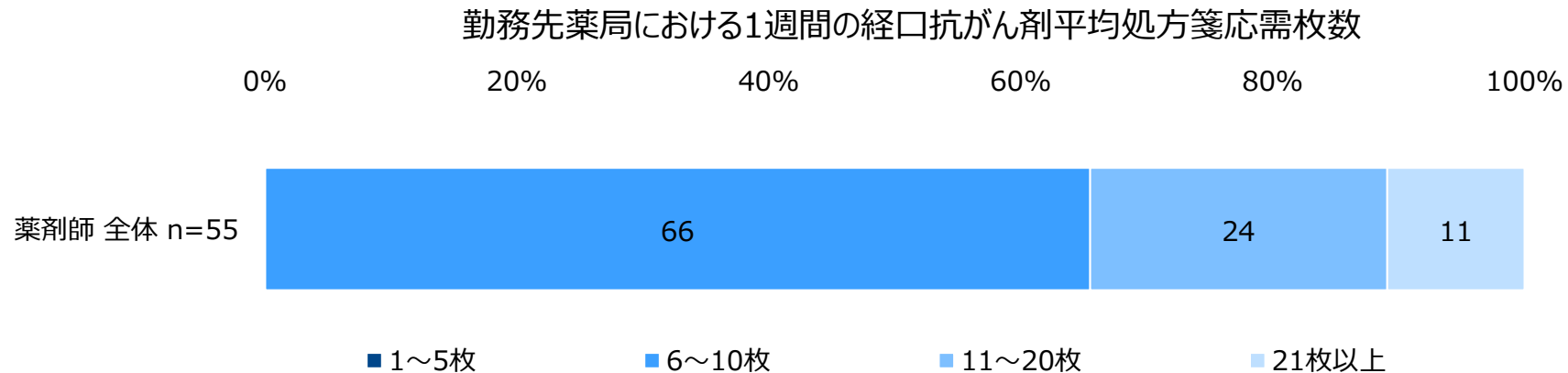
調剤薬局において、月間の処方箋応需数は約半数が1000枚～1999枚であった。



Q15.勤め先の薬局で、最新1か月間の処方箋応需枚数を1つ選択して下さい。（概ね1週間の50%以上を費やしている施設で考えて下さい）

スクリーニング設問：週間の抗がん剤処方箋応需数（薬剤師）

調剤薬局において、1週間の経口抗がん剤平均処方箋応需枚数は60%以上が6枚～10枚であった。



Q16.勤め先の薬局における、1週間の経口抗がん剤の平均処方箋応需枚数を1つ選択して下さい。